

地理歴史 科 1 年		地理総合		年間授業計画 (シラバス)	
科目名	地理総合	対象	スポーツ・進学	コース	単位数 2単位
教科書	高等学校 新地理総合, 新詳高等地図			出版社	帝国書院
副教材	新詳地理資料 COMPLETE2024 (帝国書院), デジタル準拠ノート 高等学校新地理総合 (帝国書院)				

1 学習の到達目標

<p>① 社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり向上することを目指す。</p> <p>② 地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p> <p>③ 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>④ 地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとするものの大切さについての自覚などを深める。</p>

2 評価の観点・内容・方法、及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の内容	地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解しているとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりしている。	地理に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。
評価の方法	定期考査 学力テスト 単元テスト 小テスト レポート 授業観察など	定期考査 学力テスト 単元テスト 小テスト レポート 授業観察など	学習課題 ワークシート レポート ノート 授業観察など

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめます。

評価の内容 評価の内容 知識・技能：思考・判断・表現：主体的に学習に取り組む態度 = 1：1：1

3 学習計画

※評価の観点：a（知識・技能），b（思考・判断・表現），c（主体的に学習に取り組む態度）

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と 到 達 目 標	評価の観点			時間数
			a	b	c	
4	第1部 第1章 1 地球上の位置と時差	緯度・経度の仕組みや生活に与える影響を理解することができる。	○	○		4
5	2 地図の役割と種類 【1学期中間テスト】	地図や地理情報システムの仕組みを理解し、技能を身に付けることができる。	○	○	○	4
6	第1部 第2章 1 現代世界の国家と領域	日本の位置・領域の特徴や、領土をめぐる問題について理解することができる。	○	○	○	3
7	2 グローバル化する世界 【1学期期末テスト】	グローバル化に伴い、世界の国々を結びつける要素の変化について理解することができる。	○	○	○	6
8	第2部 第1章 1 世界の地形と人々の生活	地形が人々の生活に与える影響を理解することができる。	○	○	○	10
9						
10						
11	【2学期中間テスト】 2 世界の気候と人々の生活	気候が人々の生活に与える影響を理解することができる	○	○	○	7
12	追及事例 自然1 オセアニア	オセアニアの自然環境が、人々の生活や産業に与える影響を理解することができる。	○	○	○	4
	追及事例 自然2 東南アジア	東南アジアの自然環境が、人々の生活や産業に与える影響を理解することができる。	○	○	○	4
	【2学期期末テスト】					
1	第3部 第1章 1 日本の自然環境	日本の地形や気候の特徴を学び、形成要因や地域差を理解することができる。	○	○	○	3
	2 地震・津波と防災	地震の種類と特徴、地域で異なる震災の被害について理解することができる。	○	○	○	2
2	3 火山災害と防災	火山の分布、恵み、災害の特徴を学び、共生する自治体の取り組みを理解することができる。	○	○	○	2
	4 気象災害と防災	地域で異なる気象災害を学び、台風による水害や大雪による雪害の影響と取り組みを理解することができる。	○	○	○	2
3	5 自然災害への備え	災害の被害を軽減するための取り組みを学び、被災地における自助・共助・公助を理解することができる。	○	○	○	3
	【学年末テスト】					

※学習状況により、進度・内容を変更することがあります。

地理歴史 科 1 年		地理総合		年間授業計画 (シラバス)	
科目名	地理総合	対象	特進	コース	単位数 2 単位
教科書	高等学校 新地理総合, 新詳高等地図			出版社	帝国書院
副教材	新編地理資料 2024 (とうほう), デジタル準拠ノート 高等学校新地理総合 (帝国書院)				

1 学習の到達目標

<p>① 社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり向上することを目指す。</p> <p>② 地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p> <p>③ 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>④ 地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについての自覚などを深める。</p>

2 評価の観点・内容・方法、及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の内容	地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解しているとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりしている。	地理に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。
評価の方法	定期考査 学力テスト 単元テスト 小テスト レポート 授業観察など	定期考査 学力テスト 単元テスト 小テスト レポート 授業観察など	学習課題 ワークシート レポート ノート 授業観察など

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめます。

評価の内容 評価の内容 知識・技能：思考・判断・表現：主体的に学習に取り組む態度 = 1：1：1

3 学習計画

※評価の観点：a（知識・技能），b（思考・判断・表現），c（主体的に学習に取り組む態度）

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と 到 達 目 標	評価の観点			時間数
			a	b	c	
4	第1部 第1章 1 地球上の位置と時差	緯度・経度の仕組みや生活に与える影響を理解することができる。	○	○		4
5	2 地図の役割と種類 【1学期中間テスト】	地図や地理情報システムの仕組みを理解し、技能を身に付けることができる。	○	○	○	4
6	第1部 第2章 1 現代世界の国家と領域	日本の位置・領域の特徴や、領土をめぐる問題について理解することができる。	○	○	○	3
7	2 グローバル化する世界 【1学期期末テスト】	グローバル化に伴い、世界の国々を結びつける要素の変化について理解することができる。	○	○	○	6
8	第2部 第1章 1 世界の地形と人々の生活	地形が人々の生活に与える影響を理解することができる。	○	○	○	10
9						
10						
11	【2学期中間テスト】 2 世界の気候と人々の生活	気候が人々の生活に与える影響を理解することができる	○	○	○	7
12	追及事例 自然1 オセアニア	オセアニアの自然環境が、人々の生活や産業に与える影響を理解することができる。	○	○	○	4
	追及事例 自然2 東南アジア	東南アジアの自然環境が、人々の生活や産業に与える影響を理解することができる。	○	○	○	4
	【2学期期末テスト】					
1	第3部 第1章 1 日本の自然環境	日本の地形や気候の特徴を学び、形成要因や地域差を理解することができる。	○	○	○	3
	2 地震・津波と防災	地震の種類と特徴、地域で異なる震災の被害について理解することができる。	○	○	○	2
2	3 火山災害と防災	火山の分布、恵み、災害の特徴を学び、共生する自治体の取り組みを理解することができる。	○	○	○	2
	4 気象災害と防災	地域で異なる気象災害を学び、台風による水害や大雪による雪害の影響と取り組みを理解することができる。	○	○	○	2
3	5 自然災害への備え 【学年末テスト】	災害の被害を軽減するための取り組みを学び、被災地における自助・共助・公助を理解することができる。	○	○	○	3

※学習状況により、進度・内容を変更することがあります。

地理歴史 科 1 年 歴史総合 年間授業計画 (シラバス)					
科目名	歴史総合	対象	スポーツ, 進学 コース	単位数	2 単位
教科書	歴史総合 出版社 実教出版				
副教材	明解歴史総合図説シンフォニア (帝国書院), 歴史総合演習ノート (実教出版)				

1 学習の到達目標

<ul style="list-style-type: none"> ・高校の歴史学習に積極的に取り組む姿勢を養い、以後の学習に必要な歴史学習の基本的な技能や学び方を身につける。 ・空間的な広がりや自己との関係性を意識した学習へと視野を広げる。 ・過去の事象を考察するために、資料を活用する学習を通して、歴史の叙述には、諸資料の検証と論理性などが求められることを意識する。

2 評価の観点・内容・方法, 及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・私たちの生活や身近な地域などに見られる諸事象を基に、それらが日本や日本周辺の地域及び世界の歴史とつながっていることを理解している。 ・資料に基づいて歴史が叙述されていることを理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・近代化, 国際秩序の変化や大衆化, グローバル化などの歴史の変化と, 日本や日本周辺の地域及び世界の歴史との関連性について考察し, 表現している。 ・複数の資料の関係や異同に着目して, 資料から読み取った情報の意味や意義, 特色などを考察し, 表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校社会科における学習の成果を生かし, 必履修科目である「歴史総合」を学ぶ意義や目的, 歴史的な考察の方法やその特質について, 主体的に理解を深めようとしている。
評価の方法	定期考査 学力テスト	定期考査 学力テスト	学習課題 (問題集, プリント) 授業観察など

②成績評価の方法

評価の内容: 「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点を各100点満点計300点満点で算出し、それを3で割った点数(100点法)を評点とします。学年末に評定(5段階)にまとめます。

3 学習計画

※評価の観点: a (知識・技能), b (思考・判断・表現), c (主体的に学習に取り組む態度)

月	学習単元	主な学習内容と到達目標	評価の観点			時間数
			a	b	c	
4	ガイダンス 第1章 近代化への胎動 1. 江戸時代の日本と東アジア秩序の変動 2. 江戸時代の生産・流通と諸改革 3. 幕政の改革と東アジア世界 第2章 欧米の市民革命と「西洋の衝撃」 4. イギリス産業革命とアメリ	<ul style="list-style-type: none"> ・予習復習の体験学習をする。 ・17世紀, 東アジアの体制を理解する。 ・商品作物の生産と流通が, 国内外に与えた影響を理解する。 ・欧米諸国の接近に対して日本と清はどのような対応をしたか理解する。 ・諸国の関係などを基に, 18世紀とその前後の世界 	○	○	○	1
			○	○	○	10

5	カ独立戦争	の政治と社会を理解する。	○	○	○	1
	5. フランス革命とウィーン体制	・フランス革命とウィーン体制で、政治体制はどのように変化していったのかを理解する。	○	○	○	
6	6. アメリカ合衆国の発展とラテンアメリカの独立	・領土拡大の過程で、アメリカ合衆国ではどのような問題が生じたのかを理解する。	○	○	○	12
	7. オスマン帝国の衰退とロシア	・東方問題を通じて、ロシアやオスマン帝国にはどのような変化が生じたのかを理解する。	○	○	○	
7	一学期中間考査					1
	8. アヘン戦争の衝撃と日本の開国	・アヘン戦争で東アジア諸国はどのような対応をせまられたのかを理解する。	○	○	○	
8	9. 江戸幕府の滅亡	・将軍や各藩はどのような政治体制をつくろうとしたのかを理解する。	○	○	○	1
	第3章 欧米諸国と日本の国民国家形成					
9	10. イギリス・フランスの繁栄とイタリア・ドイツ統一	・19世紀のイギリスとフランスの繁栄、イタリアとドイツが統一した経緯を考え理解する。	○	○	○	14
	11. 明治政府の諸改革	・明治政府は、どのような国づくりをすすめたのか考え理解する。	○	○	○	
10	12. 日本のアジア外交と国境問題	・日本の北方、南方国境の問題や台湾・琉球などどのように国境を画定し、清や朝鮮とどのような関係を築いてきたか考え理解する。	○	○	○	14
	13. 自由民権運動と大日本帝国憲法	・自由民権運動がめざしたのは、どのような国家だったのか。政党、立憲国家について考え理解する。	○	○	○	
10	第4章 帝国主義の時代					1
	14. 帝国主義の時代へ	・欧米諸国は、アフリカと太平洋の分割など、なぜ帝国主義の政策をすすめたのか考え理解する。	○	○	○	
10	15. 朝鮮をめぐる国際関係と日清戦争	・日清戦争は、何を目的にはじまったのか考え理解する。	○	○	○	1
	16. 日清戦争後の東アジア	・日本と中国や朝鮮との関係、日本人の意識、清をとりまく国際情勢の変化について考え理解する。	○	○	○	
10	17. 日露戦争と東アジアの変動	・日露戦争と韓国侵略、辛亥革命とその影響を考え理解する。	○	○	○	1
	18. 日本の産業革命	・産業革命によって日本の経済と社会、都市と農村の問題など、産業の発展と社会運動について考え理解する。	○	○	○	
10	一学期期末考査					1
	19. 第一次世界大戦	・第一次世界大戦は、なぜ世界を巻きこむ戦争になったのか考え理解する。	○	○	○	
10	20. ロシア革命とソ連の成立	・ソヴィエト政権はなぜ人々から支持されたか、革命が成功した背景にあったものを考え理解する。	○	○	○	14
	21. 米騒動と大正デモクラシー	・米騒動のなかで人々は何を求めたのか考え理解する。	○	○	○	
10	22. ヴェルサイユ体制とワシントン体制	・大戦後の国際秩序はどのような目的で構築されたのか考え理解する。	○	○	○	14
	23. アジアの民族運動	・第一次世界大戦後、アジア各地で民族運動が活発になったのはなぜか考える。	○	○	○	
10	24. 第一次世界大戦後の欧米諸国	・第一次世界大戦後の欧米諸国にはどのような動きがみられたか理解する。	○	○	○	14
	25. ひろがる社会運動と普通	・社会運動をになった人々は、何を求めたのかを考え	○	○	○	

	選挙の実現	理解する。					
	26. 世界恐慌と各国の対応	・世界恐慌は各国の経済や人々の生活にどのような影響を与えたのかを考え理解する。	○	○	○		
	27. ファシズムの時代	・ヒトラーのひきいるナチ党は何を主張し、どのようにして政権をにぎったのかを考え理解する。	○	○	○		1
	<u>二学期中間考査</u>						
	28. 満洲事変と軍部の対立	・日本はどのようにして国際的孤立の道をすすんでいったのかを考え理解する。	○	○	○		
11	29. 日中戦争と戦時体制	・中国との戦争は、なぜ長期化したのかを考え理解する。	○	○	○		
	30. 第二次世界大戦の勃発	・ヨーロッパでの戦いと、アジアの日中の戦争はどのようにしてむすびついたのかを考え理解する。	○	○	○		
	31. 第二次世界大戦の終結	・戦争は、いつどのようにして「終結」したのかを考え理解する。	○	○	○		
	32. 国際連合の成立と冷戦	・国際連合は設立の目的を十分にはたせてきたのかを考え理解する。	○	○	○		12
	33. 日本占領と日本国憲法	・民主化政策によって、日本が戦前からかわったことは何だろうかを考え理解する。	○	○	○		
	34. 朝鮮戦争と日本	・連合国の対日占領方針は、朝鮮戦争によってどのようにかわったのかを考え理解する。	○	○	○		
12	35. 植民地の独立	・旧植民地は、どのように独立をはたしたのかを考え理解する。	○	○	○		
	36. 米ソ両陣営の動揺	・強大な軍事力をほこった米ソが、影響力を弱めていったのはなぜなのかを考え理解する。	○	○	○		1
	<u>二学期期末考査</u>						
1	37. 日本の国際社会復帰と高度経済成長	・冷戦は日本の政治と外交にどのような影響を与えたのかを考え理解する。	○	○	○		
	38. 石油危機と世界経済	・石油危機以後の世界はどのような変化をみせたのかを考え理解する。	○	○	○		10
2	39. 緊張緩和から冷戦の終息へ	・米ソの動きは冷戦の終結にどのようにかわったのかを考え理解する。	○	○	○		
	40. 日本の経済大国化	・バブル経済はなぜ崩壊したのかを考え理解する。	○	○	○		
	41. 地域紛争と対立	・冷戦後の地域紛争の原因は何か	○	○	○		
	42. 国際秩序の変容	を考え理解する。	○	○	○		
3	<u>学年末考査</u>	・グローバル化がすすむなかで、各国はどのような動きをみせたのかを考え理解する。					1

※学習状況により、進度・内容を変更することがあります。

地理歴史 科 1 年		歴史総合		年間授業計画 (シラバス)	
科目名	歴史総合	対象	特進	コース	単位数 2 単位
教科書	詳述歴史総合		出版社 実教出版		
副教材	明解歴史総合図説シンフォニア (帝国書院), 歴史総合演習ノート (実教出版)				

1 学習の到達目標

近現代の歴史の変化に関わる諸事象を学ぶことを通して、次のような知識、技能、能力や態度を培う。

- ① 世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。
- ② 事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察する力、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想する力、考察、構想したことを効果的に説明する力、それらを基に議論する力を磨く。
- ③ よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚を深める。

2 評価の観点・内容・方法、及び成績評価の方法

① 評価の観点・内容・方法

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の内容	世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史の知識を身に付けている。 諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察する力、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想する力、考察、構想したことを効果的に説明する力、それらを基に議論する力を身に付けている。	よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚を深めている。
評価の方法	定期考査 小テスト	定期考査 小テスト ワークシート	学習活動への姿勢 学習課題 ワークシート ノート

② 成績評価の方法

評価の内容：「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点を各100点満点計300点満点で算出し、それを3で割った点数(100点法)を評点とします。学年末に評定(5段階)にまとめます。

3 学習計画

※評価の観点：a（知識・技能）、b（思考・判断・表現）、c（主体的に学習に取り組む態度）

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と 到 達 目 標	評価の観点			時間数
			a	b	c	
4	ガイダンス [序章] 歴史の扉	<ul style="list-style-type: none"> ・「学習のねらい」「授業の概要」「評価方法」について理解する。 ・高校の歴史学習の動機づけと以後の学習に必要な歴史学習の基本的な技能や学び方を身に付ける。 			○	1
5	[第1章] 近代化への胎動 【一学期中間考査】	<ul style="list-style-type: none"> ・18世紀のアジアや日本における生産と流通、アジア諸国と欧米諸国間の貿易などを学び、その実態と特徴を理解する。 	○	○	○	1
6	[第2章] 欧米の市民革命と国民国家の形成	<ul style="list-style-type: none"> ・イギリスで始まった産業革命とアメリカの独立革命・フランス革命などの一連の「革命」を契機として19世紀の西洋世界が大きく変動していく様子を理解する。 	○	○	○	11
7	【一学期期末考査】					【1】
8	[第3章] アジアの変容と日本の近代化	<ul style="list-style-type: none"> ・西欧諸国によるアジア諸国への進出とアジア諸国での改革、国民国家の形成について学び、日本では明治維新によって国民国家形成をはかり、立憲制を成立させた展開について理解する。 	○	○	○	11
9	[第4章] 帝国主義の時代	<ul style="list-style-type: none"> ・帝国主義と同時期の欧米社会、列強の進出と植民地の形成、日清・日露戦争、アジア諸民族の独立運動・立憲革命に触れ、帝国主義政策の背景や特徴とその影響、列強間の関係の変容について理解する。 	○	○	○	10
10	【二学期中間考査】					【1】
11	[第5章] 第一次世界大戦と大衆社会	<ul style="list-style-type: none"> ・国際関係の緊密化、第一次世界大戦の展開、ソヴェト連邦の成立とアメリカ合衆国の台頭、ナショナリズムの動向と国際連盟の成立に触れ、第一次世界大戦の背景と特徴、戦後の国際秩序や社会の変容、大衆社会の成立について理解する。 	○	○	○	11
12	【二学期期末考査】					【1】
1	[第6章] 経済危機と第二次世界大戦	<ul style="list-style-type: none"> ・世界恐慌、ファシズムの伸長、日本の対外政策、第二次世界大戦の展開、国際連合の成立と国際経済体制の形成、冷戦の始まりとアジア諸国の動向に触れ、経済危機の背景と影響、国際協調体制の動揺とその要因、第二次世界大戦の特徴、戦後の日本社会と国際秩序の特徴、冷戦体制の成立について理解する。 	○	○	○	9
2	[第7章]	<ul style="list-style-type: none"> ・冷戦期の地域紛争、対立の推移、第三世界の動向 	○	○	○	7

3	冷戦と脱植民地化	に触れ、地域紛争と冷戦の関係、第三世界の国々の地域連携、欧米やソヴィエト連邦の政策転換とその要因など国際政治の変容について理解する。					
	[第8章] 多極化する世界	・石油危機の特徴とその影響、冷戦末期の推移と終結、ヨーロッパとアジアの経済協力について触れ、先進工業国の経済の変容、冷戦の変容と終結の背景、経済的な地域協力の進展について理解する。	○	○	○	5	【1】
	[第9章] グローバル化と現代社会	・冷戦の終結と民主化、地域統合の拡大と地域紛争の拡散、世界のグローバル化について触れ、冷戦終結後の国際政治の変容と課題、経済の自由化や技術革新の影響、資源・エネルギー問題と世界経済の関係について理解する。	○	○	○	3	
	現代的な諸課題の形成と展望	・現代的な諸課題について、歴史的経緯、背景や原因、結果や影響などに着目するとともに、地域間の比較や関連付けを通して、持続可能な社会の実現に資するための知識・技能・力・態度を培う。	○	○	○		
	【学年末考査】						【1】

※学習状況により、進度・内容を変更することがあります。

公民科 1年		公共		年間授業計画 (シラバス)	
科目名	公共	対象	スポーツ・進学	コース	単位数 2 単位
教科書	公共 出版社 東京書籍				
副教材	ライブ 2024 公共, 現代社会を考える (帝国書院) 公共ワークノート【デジタル】 (東京書籍)				

1 学習の到達目標

- ① 現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手がかりとなる概念とともに、諸資料から、倫理的主体として活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。
- ② 現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手がかりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。
- ③ よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養されるべき、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権をになう公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。

2 評価の観点・内容・方法、及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の内容	現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手がかりとなる概念や理論について理解しているとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめることができる。	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手がかりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断し、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論したり表現することができる。	よりよい社会の実現を視野に、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取り組みを行おうとしている。また、粘り強い取り組みを行うなかで、自らの学習を調整しようとしている。
評価の方法	定期考査 学力テスト 小テスト レポート 授業観察など	定期考査 学力テスト レポート 授業観察など	学習課題 ワークシート レポート ノート 授業観察など

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめます。

評価の内容 「知識・技能：思考」「判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」 1：1：1

3 学習計画

※評価の観点：a (知識・技能), b (思考・判断・表現), c (主体的に学習に取り組む態度)

月	学習単元	主な学習内容と到達目標	評価の観点			時間数
			a	b	c	
4	ガイダンス 第3章 公共的な空間における基本的原理—私たちの民主的な社会 2 民主主義とは 3 立憲主義とは 4 人権保障の意義と展開 (一学期中間考査) 第2部 自立した主体として社会に参画する私たち 第1章 民主政治と私たち <テーマ1> 民主政治と政治参加 1 私たちの民主政治 2 地方自治のしくみと役割 3 国会のしくみと役割 4 内閣のしくみと役割 5 政治参加と選挙 (一学期期末考査) 6 政党と利益集団 7 メディアと世論	<ul style="list-style-type: none"> 年間進捗を確認し、体験学習を通じて学習方法を学ぶ。 	○	○	○	1
5		<ul style="list-style-type: none"> 社会における意見や利害の調整, 意思決定における民主主義の意義について理解する。 	○	○	○	1
		<ul style="list-style-type: none"> 法の支配や近代立憲主義の意義について, 歴史的背景もふまえながら理解し, 立憲主義と民主主義の緊張関係の意味について考察する。 	○	○	○	1
		<ul style="list-style-type: none"> 公共的な空間における基本的原理の一つである, 人間の尊厳と平等について, その意義, 歴史的展開, 現代の動向について理解する。また, 日本国憲法の基本原理と基本的人権について理解する。 	○	○	○	2
		<ul style="list-style-type: none"> 民意を反映した政治を実現するための現状と課題について, 世論調査, 投票率, 世論調査と選挙結果の関連から理解し, 国民投票のメリットとデメリットについて, 多面的・多角的に考察し議論する。 		○	○	1
		<ul style="list-style-type: none"> 政治の働き, 民主主義について理解し, 現在の民主主義の課題について考察する。 				
6		<ul style="list-style-type: none"> 地方自治の原則としくみ, 地方財政のしくみと課題, 住民参加の形態と意義について理解するとともに, 地方自治の課題について考察する。 	○	○	○	1
		<ul style="list-style-type: none"> 三権分立と国会の地位, 国会の役割と権限, 国会の構成と運営について, 理解し, 実際の政治の運営の現状と課題について考察する。 	○	○	○	1
		<ul style="list-style-type: none"> 内閣と国会との関係, 内閣の役割と行政組織, 行政国家化と行政改革について, 実際の政治事象とも関連させながら理解し, 今日の内閣の課題について考察する。 	○	○	○	2
7		<ul style="list-style-type: none"> 政治参加の方法, 民主政治と選挙制度, 日本の選挙制度と課題について理解し, 有権者の意思をよりよく反映するという視点から, 日本の選挙制度について考察する。 	○	○	○	2
8	<ul style="list-style-type: none"> 政党の役割, 政党政治, 利益集団, 政治資金にかかわる課題について理解する。 	○	○	○	3	
	<ul style="list-style-type: none"> 民主主義における世論の意義, メディアの世論への影響, インターネット時代の世論形成の現状と課題などについて理解し, 正しい情報に基づく合理的な判断の重要性について考察する。 	○	○	○	1	

2	2 国際連合の役割	法の意義について多面的・多角的に考察する。 ・国際連盟, 国際連合の成立とそのしくみ, 国際連合における安全保障やさまざまな役割と課題について理解し, 国連の安全保障に果たす意義と課題について考察する。	○	○	○	1 2
	<テーマ2>	・核兵器をめぐる世界の動きを, 核拡散の現状, 国連における核兵器禁止条約, INF 全廃条約の失効などから理解し, 核軍縮について, 多面的・多角的に考察し議論する。				
3	国際社会と平和主義 1 日本の平和主義と冷戦	・平和主義と日本国憲法第9条, 自衛隊と日米安全保障条約, 戦後日本の防衛政策について理解する。		○	○	2
	2 冷戦後の世界と日本	・冷戦後の世界の動き, 冷戦終結後の日本の安全保障政策, 自衛隊と海外派遣などについて理解し, 日本の安全保障政策の変化の背景にある国際関係について考察するとともに, 今後の安全保障の課題について追究する。	○	○	○	1 2 2
	<テーマ3>					
	国際平和への課題	・主権国家内部で起こる紛争と人権侵害について, 事例を手がかりに理解し, 人権保護のための他国や国際機関の武力介入について, 多面的・多角的に考察し議論する。	○	○	○	1 2
	1 現代の紛争とその影響	・現代の紛争とその要因, 紛争の解決に向けた取り組み, 難民問題について理解する。	○	○	○	2
2 平和な国際社会に向けて	・紛争や難民問題の解決に向けて国際機関やNGOなどの取り組みが求められていることを理解する。 ・平和の意味, 外交を通じた平和の実現の意義, 日本の立場と役割について理解し, 平和憲法をもつ日本として, 国際平和に向けてどのような姿勢で何をなすべきか, 多面的・多角的に考察し議論する。	○	○	○	1 1	
	(学年末考査)					

※学習状況により, 進度・内容を変更することがあります。

公民科 1年		公共		年間授業計画 (シラバス)		
科目名	公共	対象	特進	コース	単位数	2 単位
教科書	高等学校 公共 私たちがひらく未来・社会			出版社	清水書院	
副教材	ライブ!2024 公共, 現代社会を考える (帝国書院), 公共ワークノート (清水書院)					

1 学習の到達目標

- ・人間と社会についての見方・考え方を身に付ける。
- ・現代の諸課題を追求したり解決したりする活動を行う。
- ・広い視野にたち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国会議員及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力を身に付ける。

2 評価の観点・内容・方法, 及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の内容	現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。	よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。
評価の方法			
	定期考査 学力テスト 単元テスト 小テスト レポート 授業観察など	定期考査 学力テスト 単元テスト 小テスト レポート 授業観察など	学習課題 ワークシート レポート ノート 授業観察など

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学期ごとに観点別評価を行い、最終的に学年末に評定にまとめます。

評価の内容 「知識・技能：思考」「判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」 1：1：1

3 学習計画

※評価の観点：a（知識・技能），b（思考・判断・表現），c（主体的に学習に取り組む態度）

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と 到 達 目 標	評価の観点			時間数
			a	b	c	
4	学習確認ガイダンス 第2編 基本的人権の尊重 第1章 民主政治の原理	<ul style="list-style-type: none"> ・個人の尊重と基本的人権の保障、法の支配や立憲主義という近代民主主義国家の基本的な原理を理解し、国民の自由や権利が保障されていることの意義を考察する。 	○	○	○	1
	1 近代国家と立憲主義		○	○	○	2
5	file7 法の意義と役割	<ul style="list-style-type: none"> ・日本国憲法の成立について、その歴史的背景と経緯について理解を深める。 				
	2 日本国憲法の成立 file8 憲法改正について考えよう					
	一学期中間考査					
	第2章 人権の尊重と日本国憲法	<ul style="list-style-type: none"> ・日本国憲法の三つの基本原理を踏まえ、平和主義と日本をめぐる安全保障に関する情勢を理解する。 	○	○	○	17
	1 日本国憲法の三原理と人権保障					
	2 平和主義と国際社会	<ul style="list-style-type: none"> ・日本国憲法が保障している基本的人権の内容を通して、政治制度との関わりについて考察し、個人の尊厳、自由、平等などの社会的価値について理解を深める。 		○	○	
6	3 平等権			○	○	
	4 自由権			○	○	
	file9 多様化する社会の人権①			○	○	
	file10 多様化する社会の人権②			○	○	
7	5 社会権	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会において、基本的人権を拡充するものとして主張されている新しい人権の内容を理解するとともに、国際社会における人権に関する諸条約の意義を考察する。 		○	○	
	6 参政権の保障と国務請求権			○	○	
	7 新しい人権 file11 多様化する家族について考えよう			○	○	
	8 グローバル化と国際人権			○	○	
	一学期期末考査					
8	第3編 現代の民主政治と社会参画 第1章 民主政治の成立と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・民主社会の成立過程、現代社会の民主政治の仕組みと世界の政治制度について理解する。 	○	○	○	10
9	1 自由民主主義の成立と危機					

10	<p>2 現代の民主主義と課題 file12 世界の政治制度</p> <p>3 世論の形成と民主社会 file13 情報モラルについて</p> <p>4 政治参加と主権者(有権者)</p> <p>5 選挙と政党 file14 選挙に行こう!</p> <p style="text-align: center;">二学期中間考査</p>	<p>・民主政治における世論形成と政治参加の意義について理解し、主権者(有権者)として社会に関わる意識を高める。</p>				
11	<p>第2章 日本の政治機構</p> <p>1 国会の役割としくみ</p> <p>2 内閣と行政機関</p> <p>3 裁判所の役割としくみ</p> <p>4 市民生活と司法参加 file15 刑罰・更正と死刑制度</p> <p>5 地方自治と住民の生活 file16 外国人住民の多い街</p>	<p>・国民主権を中心とした立法、行政、司法の仕組みと課題を理解し、制度や機構の背景にある民主政治の考え方について多面的・多角的に考察する。</p> <p>・司法制度の仕組みと課題を理解し、よりよい司法の実現のために、国民が司法に参加する意義を考察する。</p> <p>・地方自治の仕組みを理解し、地方自治が民主政治の基盤となっていること、地域の課題について考察する。</p>	○	○	○	10
12	<p style="text-align: center;">二学期期末考査</p> <p>第3章 国際政治のしくみと役割</p> <p>1 国際政治の成り立ち</p> <p>2 国際連合の設立とその役割 file17 国際連合の主要機関と課題</p> <p>3 冷戦とその終焉</p> <p>4 軍縮と安全保障</p> <p>5 リージョナリズム</p> <p>6 グローバル化と国家</p>	<p>・国際社会の変遷、人権、国家主権、国際法の意義、国際連合をはじめとする国際機構の役割について理解し、国際社会が抱える課題を考察する。</p> <p>・冷戦後の国際社会の変化、冷戦後の軍縮や核兵器廃絶などに関する国際的な取り組みについて理解し、グローバル化が進展する国際社会の在り方や課題を多角</p>	○	○	○	10

3	<p>1 現代の紛争 file18 パレスチナ問題について考えよう</p> <p>2 多文化・多民族社会に向けて</p> <p>3 移民と難民 file19 難民問題</p> <p>4 日本の戦後外交と課題 file20 原爆の記憶とその継承</p> <p>学年末考査</p>	<p>的・多面的に考察する。</p> <p>・現代の国際紛争の諸要因について理解し、その対立を解消するために、多文化共生の観点から調整し協調することが国際政治に必要とされることを理解する。</p> <p>平和主義と国際協調の立場から、日本の安全保障や国際貢献の在り方について多面的・多角的に考察する。</p>		<p>○ ○</p> <p>○ ○</p> <p>○ ○</p> <p>○ ○</p>		5
---	--	--	--	---	--	---

※学習状況により、進度・内容を変更することがあります。

地理歴史 科 2 年 日本史探究 年間授業計画 (シラバス)					
科目名	日本史探究	対象	スポーツ	コース	単位数 4 単位
教科書	『日本史探究 高校日本史』 出版社 山川出版社				
副教材	『日本史用語集(A・B共用)』 (山川出版社) 『第10版詳説日本史図録』 (山川出版社) 『2023年度新課程 要点整理ゼミナール日本史』 (浜島書店)				

1 学習の到達目標

- ① 我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界史と関連付けて総合的に考察する。
- ② 我が国の伝統と文化の特色についての認識を深める。
- ③ 歴史的思考力を培い国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

2 評価の観点・内容・方法

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の趣旨	歴史的資料を収集し、資料から必要な情報を読み取る技能や、課題解決に必要な知識を身に着けている。	歴史的資料の特性を踏まえ、読み取った情報から、その時代的・地域的特色を多面的・多角的に考察し、仮説などを表現できる。	我が国の歴史の学習に主体的に臨み、より深い学びを得るための工夫を積極的に行っている。
評価の方法	ノート提出 問題集提出	定期考査 課題プリント	定期考査 課題プリント

②成績評価の方法

評価の内容：「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点を各100点満点計300点満点で算出し、それを3で割った点数(100点法)を評点とします。学年末に評定(5段階)にまとめます。

3 学習計画

※評価の観点：a(知識・技能)、b(思考・判断・表現)、c(主体的に学習に取り組む態度)

月	学習単元	主な学習内容と到達目標	評価の観点			時間数
			a	b	c	
4	ガイダンス(体験学習等) 第I部 原始・古代 第1章 日本文化のあけぼの 1 日本文化のはじまり 2 農耕の開始	・予習復習の体験学習をする。 日本史学習のモデルスタイル等の説明を理解する。 ・考古学的成果により日々新たな発見が加わる可能性を意識する。	○	○	○	20
5	第2章 古墳とヤマト政権 1 古墳文化の展開 2 飛鳥の朝廷 1学期中間考査	・大和政権の発展を、朝鮮半島諸国の動きと関連付けて学ぶ。 ・資料を用い、文献を踏まえて古代社会に触れる。 ・聖徳太子の政治、大化の改新以降の政治と律令国家体制、奈良時代の政治を史料もまじえて学ぶ。	○	○	○	20
6	第3章 律令国家の形成 1 律令国家への道 2 平城京の時代 3 律令国家の文化 4 律令国家の変容 第4章 貴族政治の展開 1 摂関政治 2 国風文化	・天皇中心の中央集権国家建設を目指していることを理解する。 ・資料を活用し、文化の特色について学ぶ。 ・桓武・嵯峨天皇の政治改革の特色と、藤原氏が他氏排斥によって政権を獲得したことを学ぶ。 ・遣唐使の廃止が、文化に影響を及ぼしたことを理解する。	○	○	○	
7	1学期期末考査		○	○	○	

8	3 荘園の発達と武士団の成長 第Ⅱ部 中世	<ul style="list-style-type: none"> ・後三条天皇の政治が院政へ発展していくことを学ぶ。 ・武士が政権を握るまでに至った背景や影響を理解する。 ・北条氏による執権政治の成立と発展の過程について学ぶ。 	○	○	○	20
9	第5章 院政と武士の進出 1 院政の始まり 2 院政と平氏政権		○	○	○	
10	第6章 武家政権の成立 1 鎌倉幕府の成立と展開 <u>2学期中間考査</u>		○	○	○	
	2 モンゴル襲来と幕府の衰退 3 鎌倉文化	<ul style="list-style-type: none"> ・元寇後の御家人体制の動揺と鎌倉幕府の滅亡、建武の新政から室町幕府の成立と全盛期について学ぶ。 ・建武の新政を通して鎌倉幕府から室町幕府への過渡期の政治状況を理解する。 ・幕府が衰退していった、原因と背景について学ぶ。 ・室町文化は日本の伝統芸術の源であることを理解する。 ・各地の戦国大名の支配の特徴を、史料をまじえながら学ぶ。 ・織田信長、豊臣秀吉による天下統一までの過程について理解する。 	○	○	○	28
11	第7章 武家社会の成長 1 室町幕府の成立 2 下剋上の社会 3 室町文化 4 戦国の動乱		○	○	○	
12	<u>2学期期末考査</u>		○	○	○	
	第8章 近世の幕開け 1 天下人の登場 2 豊臣政権と桃山文化		○	○	○	24
1	第9章 幕藩体制の成立と展開 1 江戸幕府の成立	<ul style="list-style-type: none"> ・史料をまじえ、江戸初期の外交と鎖国に至るまでの経緯とメリット・デメリットを考える。 ・武断政治から文治政治へ転換したこと。財政改革が幕府の今後の課題になることなどを理解する。 ・江戸時代に発展した町人文化を学ぶ。 	○	○	○	
2	2 江戸初期の外交と文化 3 幕政の安定 4 経済の発展 5 元禄文化		○	○	○	
3	<u>3学期期末考査</u>		○	○	○	

※学習状況により、進度・内容を変更することがあります。

地理歴史 科 2 年		地理探究		年間授業計画 (シラバス)	
科目名	地理探究	対象	スポーツ コース	単位数	4 単位
教科書	新詳地理探究, 新詳高等地図		出版社 帝国書院		
副教材	新詳地理資料 COMPLETE 2023 (帝国書院), 新詳地理探究演習ノート (帝国書院)				

1 学習の到達目標

<p>① 社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を身に付ける。</p> <p>② 地理に関わる諸事象に関して、世界の空間的な諸事象の規則性、傾向性や、世界の諸地域の地域的特色や課題などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p> <p>③ 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、系統地理的、地誌的に、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>④ 地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする大切さについての自覚などを深める。</p>

2 評価の観点・内容・方法、及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の内容	地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解しているとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりしている。	地理に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。
評価の方法	定期考査 学力テスト 単元テスト 小テスト レポート 授業観察など	定期考査 学力テスト 単元テスト 小テスト レポート 授業観察など	学習課題 ワークシート レポート ノート 授業観察など

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめます。

評価の内容 知識・技能：思考・判断・表現：主体的に学習に取り組む態度 = 1：1：1

3 学習計画

※評価の観点：a（知識・技能），b（思考・判断・表現），c（主体的に学習に取り組む態度）

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と 到 達 目 標	評価の観点			時間数
			a	b	c	
4	ガイダンス（体験学習等）	予習復習の体験学習をする。			○	1
	第1部 第1章 自然環境					
	1 地形	営力的な視点からさまざまな地形の分布や成因を理解し，人間生活との関わりを考察する。	○	○	○	9
5	2 気候	気候要素と気候因子の関係から成り立ちを理解し，人間生活への影響を考察する。	○	○	○	9
	【1学期中間テスト】					
6	3 日本の自然環境	日本の地形と気候の特徴とこれらによる自然災害の特徴を理解するとともに，防災のあり方を考察する。	○	○	○	7
7	4 地球環境問題	成因や特徴，地域的な分布を大観し，各事例を考察する。	○	○	○	6
	第1部 第2章 資源と産業					
	1 農林水産業	農業地域区分やその現状と課題，及び世界の中での日本の課題を考察する。	○	○	○	12
	【1学期期末テスト】					
8	3 エネルギー・鉱産資源	エネルギー資源の利用と分布，鉱産資源の分布を考察する。	○	○	○	7
9	4 資源・エネルギー問題	資源・エネルギー問題を大観し，その現状を理解するとともに，生産や消費が抱える課題を考察する。	○	○	○	7
	5 工業	工業の発達や立地，世界の工業地域や，世界の工業の現状と課題，及び日本の工業の課題を考察する。	○	○	○	7
	6 第3次産業	現代世界の第3次産業の発展と，世界と日本の観光業の特色を考察する。	○	○	○	4
10	第1部 第3章 交通・通信と観光，貿易					
	1 交通・通信	交通や通信の発達による一体化と地域差を考察する。	○	○	○	4
	2 観光	観光産業の発達による変化を考察する。	○	○	○	3
	【2学期中間テスト】					
	第1部 第4章 人口，村落・都市					
	1 人口	世界人口の分布の特色や動態，人口構成や人口転換を考察する。	○	○	○	7
11	2 人口問題	世界の人口問題を大観し，発展途上国，先進国，日本の人口問題の事例を考察する。	○	○	○	5
	3 村落と都市	村落・都市の立地や発達・機能や，日本の都市の特徴を考察する。	○	○	○	6
12	4 都市・居住問題	世界の都市・居住問題を大観し，その要因と発生のしくみを，各国の事例をもとに考え，解決策を考察する。	○	○	○	5

	第2部 第2章 現代世界の諸地域					
	11 オーストラリアと ニュージーランド	オーストラリアとニュージーランドの自然、産業、文化などを理解・考察する。	○	○	○	7
	【2学期期末テスト】					
1	9 アメリカ合衆国	アメリカ合衆国の自然、産業、文化などを理解・考察する。	○	○	○	7
2	1 中国	中国の自然、産業、文化などを理解・考察する。	○	○	○	7
	3 ASEAN 諸国	ASEAN 諸国の自然、産業、文化などを理解・考察する。	○	○	○	7
3	【学年末テスト】					

※学習状況により、進度・内容を変更することがあります。

地理歴史科 2年		世界史探究		年間授業計画 (シラバス)	
科目名	世界史探究	対象	進学文系	コース	単位数 4単位
教科書	世界史探究		出版社 東京書籍		
副教材	最新世界史図説タペストリー [二十二訂版] (帝国書院) 世界史探究 詳説世界史 10 分間テスト (山川出版社) 新世界史研究ノート [標準編] (啓隆社)				

1 学習の到達目標

<p>社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を身に付ける。</p> <p>① 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連づけながら理解するとともに、諸資料から世界の歴史に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。</p> <p>② 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>③ 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。</p>
--

2 評価の観点・内容・方法、及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の内容	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連づけながら理解しているとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりしている。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとしている。
評価の方法	定期考査	定期考査	学習課題 (問題集, プリント) 授業観察など

②成績評価の方法

評価の内容：「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点を各100点満点計300点満点で算出し、それを3で割った点数(100点法)を評点とします。学年末に評定(5段階)にまとめます。

3 学習計画

※評価の観点：a (知識・技能)，b (思考・判断・表現)，c (主体的に学習に取り組む態度)

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と 到 達 目 標	評価の観点			時間数
			a	b	c	
4	ガイダンス [序章] 世界史へのまなざし	・予習復習の体験学習をする。			○	1
		・現在と異なる過去や現在につながる過去に触れ，世界史学習の意味や意義に気づく。	○	○	○	1
		・人類が自然環境に適応しながら進化したこと，及びその過程を理解する。	○	○	○	1
5	[第1章] 古代文明の出現	・オリエント文明，インダス文明，及び中華文明の形成過程に触れ，古代文明の歴史的特質を理解する。	○	○	○	9
	[第2章] 西アジアと地中海周辺	・古代オリエントの統一，古代ギリシアとヘレニズム世界の形成，都市国家ローマの形成と大帝国建設の過程，古代末期の社会と宗教，イラン系民族の諸活動，イスラーム世界の形成過程，及び中世初期の東西ヨーロッパの情勢に触れ，西アジアと地中海周辺の歴史的特質を理解する。	○	○	○	18
	【一学期中間考査】		○	○	○	1
6	[第3章] 南アジア	・アーリヤ人の進出以後の南アジアの文化，社会，国家の形成過程に触れ，南アジア世界の歴史的特質を理解する。	○	○	○	6
	[第4章] 東南アジア	・東南アジアの地理的特質，文化，国家の形成過程に触れ，東南アジア世界の歴史的特質を理解する。	○	○	○	4
	[第5章] 東アジアと中央ユーラシア	・東アジアの地理的特質，古代国家・文化の形成過程，秦・漢帝国の形成・発展の過程，魏晉南北朝時代の変遷，隋・唐帝国の形成・発展の過程，及び中央ヨーロッパのトルコ化とイスラーム化の過程に触れ，日本を含む東アジア世界・中央ユーラシア地域の歴史的特質を理解する。	○	○	○	18
7	【一学期期末考査】		○	○	○	1
	[第6章] アフリカ，オセアニア， 古アメリカ	・アフリカ大陸，オセアニア，及び南北アメリカ大陸の文明の形成過程に触れ，各地域の歴史的特質を理解する。	○	○	○	3
9	[第7章] イスラーム世界の拡大 と繁栄	・イスラーム世界の拡大と複数の国家・地域への分裂過程，及びイスラーム文明の広がりにつれ，西アジア	○	○	○	9

		地域の変容と特質を理解する。				
10	[第8章] 中世ヨーロッパ 【二学期中間考査】	・9世紀から15世紀にかけての西ヨーロッパ世界の動向に触れ、同世界の政治、経済、社会、及び文化の変遷と、ルネサンスの特質を理解する。	○	○	○	20 1
11	[第9章] 中華世界の変容とモンゴル帝国	・内陸アジア諸民族と周辺諸地域世界との関わりに触れ、東アジア北方の諸民族の動向、唐王朝滅亡後の東アジア世界の変容、およびモンゴル帝国の興亡とその影響について理解する。	○	○	○	15
12	【二学期期末考査】		○	○	○	1
1	[第10章] インド洋海域世界の発展と東南アジア	・イスラームの影響を受けたインド・アフリカ東海岸地域の展開、及び10世紀から13世紀にかけての東南アジアの変容について触れ、南アジア・アフリカ・東南アジア各地域の変容と歴史的特質を理解する。	○	○	○	3
2	[第11章] 大交易時代と世界の一体化	・アジア地域における交易ネットワークの形成過程とポルトガルのアジア進出、14世紀から17世紀にかけての東アジア世界の動向、及び「大交易時代」におけるヨーロッパ・アジア世界の変容に触れ、「世界の一体化」の歴史的特質を理解する。	○	○	○	13
3	【学年末考査】		○	○	○	1

※学習状況により、進度・内容を変更することがあります。

地理歴史 科 2 年 日本史探究 年間授業計画 (シラバス)						
科目名	日本史探究	対象	進学文系	コース	単位数	4 単位
教科書	『日本史探究 高校日本史』		出版社 山川出版社			
副教材	『日本史用語集 (A・B共用)』 (山川出版社)		『第10版詳説日本史図録』 (山川出版社)			
	『2023年度新課程 要点整理ゼミナール日本史』 (浜島書店)					

1 学習の到達目標

- ① 我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界史と関連付けて総合的に考察する。
- ② 我が国の伝統と文化の特色についての認識を深める。
- ③ 歴史的思考力を培い国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

2 評価の観点・内容・方法

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の趣旨	歴史的資料を収集し、資料から必要な情報を読み取る技能や、課題解決に必要な知識を身に着けている。	歴史的資料の特性を踏まえ、読み取った情報から、その時代的・地域的特色を多面的・多角的に考察し、仮説などを表現できる。	我が国の歴史の学習に主体的に臨み、より深い学びを得るための工夫を積極的に行っている。
評価の方法	ノート提出 問題集提出	定期考査 課題プリント	定期考査 課題プリント

②成績評価の方法

評価の内容：「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点を各100点満点計300点満点で算出し、それを3で割った点数(100点法)を評点とします。学年末に評定(5段階)にまとめます。

3 学習計画

※評価の観点：a(知識・技能)、b(思考・判断・表現)、c(主体的に学習に取り組む態度)

月	学習単元	主な学習内容と到達目標	評価の観点			時間数
			a	b	c	
4	ガイダンス(体験学習等) 第I部 原始・古代 第1章 日本文化のあけぼの 1 日本文化のはじまり 2 農耕の開始	・予習復習の体験学習をする。 日本史学習のモデルスタイル等の説明を理解する。 ・考古学的成果により日々新たな発見が加わる可能性を意識する。	○	○	○	20
5	第2章 古墳とヤマト政権 1 古墳文化の展開 2 飛鳥の朝廷 <u>1学期中間考査</u>	・大和政権の発展を、朝鮮半島諸国の動きと関連付けて学ぶ。 ・資料を用い、文献を踏まえて古代社会に触れる。 ・聖徳太子の政治、大化の改新以降の政治と律令国家体制、奈良時代の政治を史料もまじえて学ぶ。	○	○	○	20
	第3章 律令国家の形成 1 律令国家への道 2 平城京の時代	・天皇中心の中央集権国家建設を目指していることを理解する。	○	○	○	
6	3 律令国家の文化 4 律令国家の変容 第4章 貴族政治の展開 1 摂関政治 2 国風文化	・資料を活用し、文化の特色について学ぶ。 ・桓武・嵯峨天皇の政治改革の特色と、藤原氏が他氏排斥によって政権を獲得したことを学ぶ。 ・遣唐使の廃止が、文化に影響を及ぼしたことを理解する。	○	○	○	
7	<u>1学期期末考査</u>		○	○	○	

8	3 荘園の発達と武士団の成長 第Ⅱ部 中世	<ul style="list-style-type: none"> ・後三条天皇の政治が院政へ発展していくことを学ぶ。 ・武士が政権を握るまでに至った背景や影響を理解する。 ・北条氏による執権政治の成立と発展の過程について学ぶ。 	○	○	○	20
9	第5章 院政と武士の進出		○	○	○	
	1 院政の始まり					
	2 院政と平氏政権					
10	第6章 武家政権の成立		○	○	○	
	1 鎌倉幕府の成立と展開					
	<u>2学期中間考査</u>					
	2 モンゴル襲来と幕府の衰退		○	○	○	28
	3 鎌倉文化					
11	第7章 武家社会の成長		○	○	○	
	1 室町幕府の成立					
	2 下剋上の社会	○	○	○		
	3 室町文化	○	○	○		
	4 戦国の動乱					
12	<u>2学期期末考査</u>	○	○	○		
	第8章 近世の幕開け	○	○	○	24	
	1 天下人の登場					
1	2 豊臣政権と桃山文化					
	第9章 幕藩体制の成立と展開	○	○	○		
	1 江戸幕府の成立					
2	2 江戸初期の外交と文化	○	○	○		
	3 幕政の安定					
	4 経済の発展					
	5 元禄文化	○	○	○		
3	<u>3学期期末考査</u>					

※学習状況により、進度・内容を変更することがあります。

地理歴史 科 2 年		地理探究		年間授業計画 (シラバス)	
科目名	地理探究	対象	進学文系	コース	単位数 4 単位
教科書	新詳地理探究, 新詳高等地図		出版社 帝国書院		
副教材	新詳地理資料 COMPLETE 2023 (帝国書院), 新詳地理探究演習ノート (帝国書院)				

1 学習の到達目標

<p>① 社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を身に付ける。</p> <p>② 地理に関わる諸事象に関して、世界の空間的な諸事象の規則性、傾向性や、世界の諸地域の地域的特色や課題などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p> <p>③ 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、系統地理的、地誌的に、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>④ 地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする大切さについての自覚などを深める。</p>

2 評価の観点・内容・方法、及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の内容	地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解しているとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりしている。	地理に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。
評価の方法	定期考査 学力テスト 単元テスト 小テスト レポート 授業観察など	定期考査 学力テスト 単元テスト 小テスト レポート 授業観察など	学習課題 ワークシート レポート ノート 授業観察など

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめます。

評価の内容 知識・技能：思考・判断・表現：主体的に学習に取り組む態度 = 1：1：1

3 学習計画

※評価の観点：a（知識・技能），b（思考・判断・表現），c（主体的に学習に取り組む態度）

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と 到 達 目 標	評価の観点			時間数
			a	b	c	
4	ガイダンス（体験学習等）	予習復習の体験学習をする。			○	1
	第1部 第1章 自然環境					
	1 地形	営力的な視点からさまざまな地形の分布や成因を理解し，人間生活との関わりを考察する。	○	○	○	9
5	2 気候	気候要素と気候因子の関係から成り立ちを理解し，人間生活への影響を考察する。	○	○	○	9
	【1学期中間テスト】					
6	3 日本の自然環境	日本の地形と気候の特徴とこれらによる自然災害の特徴を理解するとともに，防災のあり方を考察する。	○	○	○	7
7	4 地球環境問題	成因や特徴，地域的な分布を大観し，各事例を考察する。	○	○	○	6
	第1部 第2章 資源と産業					
	1 農林水産業	農業地域区分やその現状と課題，及び世界の中での日本の課題を考察する。	○	○	○	12
	【1学期期末テスト】					
8	3 エネルギー・鉱産資源	エネルギー資源の利用と分布，鉱産資源の分布を考察する。	○	○	○	7
9	4 資源・エネルギー問題	資源・エネルギー問題を大観し，その現状を理解するとともに，生産や消費が抱える課題を考察する。	○	○	○	7
	5 工業	工業の発達や立地，世界の工業地域や，世界の工業の現状と課題，及び日本の工業の課題を考察する。	○	○	○	7
	6 第3次産業	現代世界の第3次産業の発展と，世界と日本の観光業の特色を考察する。	○	○	○	4
10	第1部 第3章 交通・通信と観光，貿易					
	1 交通・通信	交通や通信の発達による一体化と地域差を考察する。	○	○	○	4
	2 観光	観光産業の発達による変化を考察する。	○	○	○	3
	【2学期中間テスト】					
	第1部 第4章 人口，村落・都市					
	1 人口	世界人口の分布の特色や動態，人口構成や人口転換を考察する。	○	○	○	7
11	2 人口問題	世界の人口問題を大観し，発展途上国，先進国，日本の人口問題の事例を考察する。	○	○	○	5
	3 村落と都市	村落・都市の立地や発達・機能や，日本の都市の特徴を考察する。	○	○	○	6
12	4 都市・居住問題	世界の都市・居住問題を大観し，その要因と発生のしくみを，各国の事例をもとに考え，解決策を考察する。	○	○	○	5

	第2部 第2章 現代世界の諸地域					
	11 オーストラリアと ニュージーランド	オーストラリアとニュージーランドの自然、産業、文化などを理解・考察する。	○	○	○	7
	【2学期期末テスト】					
1	9 アメリカ合衆国	アメリカ合衆国の自然、産業、文化などを理解・考察する。	○	○	○	7
2	1 中国	中国の自然、産業、文化などを理解・考察する。	○	○	○	7
	3 ASEAN 諸国	ASEAN 諸国の自然、産業、文化などを理解・考察する。	○	○	○	7
3	【学年末テスト】					

※学習状況により、進度・内容を変更することがあります。

公民 科 2 年 倫 理 年間授業計画 (シラバス)						
科目名	倫理	対象	進学文系	コース	単位数	2 単位
教科書	高等学校新倫理新訂版			出版社	清水書院	
副教材	高等学校新倫理新訂版ワークノート・最新図説倫理・1問1答問題集 (清水書院)					

1 学習の到達目標

- ①人間としての在り方生き方についての見方・考え方を身に付ける。
 ②現代の諸課題を追求したり解決に向けて構想したりする活動を行う。
 ③広い視野に立ち、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力を育成する。

2 評価の観点・内容・方法, 及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の内容	<ul style="list-style-type: none"> 古今東西の幅広い知的蓄積を通して、現代の諸課題を捉え、より深く思索するための手掛かりとなる概念や理論について理解している。 諸資料から、人間としての在り方生き方に関わる情報を調べまとめることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自立した人間として、他者と共によりよく生きる自己の生き方について、より深く思索することができる。 現代の倫理的諸課題を解決するために倫理に関する概念や理論などを活用して、理論的に思考し、説明したり対話したりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 人間としての在り方生き方に関わる事象や課題について主体的に追究したり、他者と共によりよく生きる自己を形成しようとしている。 多面的・多角的な考察やより深い思索を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚を深めている。
評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> 小テスト・定期テスト ワークシート レポート・ノート提出 グループワーク 観察など 	<ul style="list-style-type: none"> 小テスト・定期テスト ワークシート レポート・ノート提出 グループワーク 観察など 	<ul style="list-style-type: none"> 小テスト・定期テスト ワークシート レポート, 課題提出 ノート提出・グループワーク 観察など

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめます。

評価の内容 「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」 1 : 1 : 1

3 学習計画

※評価の観点 : a (知識・技能), b (思考・判断・表現), c (主体的に学習に取り組む態度)

学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と 到 達 目 標	評価の観点			時間数
		a	b	c	
ガイダンス (体験学習など)	予習復習の体験学習をする。		○	○	1
序章 人間とは何か	さまざまな人間観の理解を通して人間の多様な在り方に思索を向けさせるとともに、人間存在への問いから現代の諸課題を探究することを理解する。	○	○	○	4
第1編 第1章 1心の機能と個性 2パーソナリティの	心のあり方を科学的に探究してきた心理学の知見を手がかりに、欲求や感情、認知、発達に着目して、青				

5	<p>形成と「私」 第2章 1 人間の活動を支える心 2 認知のしくみ 3 生涯にわたる発達</p> <p>第2編 第1章 哲学の始源：ギリシア思想 1 神話から哲学へ—自然哲学者たち</p> <p>(1 学期中間考査) 2 知と徳をめぐる問い—ソクラテス</p>	<p>年期の課題を踏まえ豊かな自己形成に向けて、他者と共によりよく生きる自己の生き方についての思索を深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> 西洋社会の根幹にあり、現代の合理主義の由来となる古代ギリシアの思想の知見を手掛かりに、幸福、愛、徳に着目して、人間としての在り方生き方についての思索を深める。 古代ギリシアの理性をもつ人間という人間観の理解を通して、自分の考えを論理的、批判的に吟味する力や対話する力などを身につけることが大切であることを自覚する。 	○	○	○	4
6	<p>3 理想主義的なあり方—プラトン 4 現実主義的なあり方—アリストテレス 5 幸福をめぐる問い—ヘレニズムの思想</p>	<ul style="list-style-type: none"> ソクラテスの思索が人間としての自覚の第一歩であることを自覚させ、各自の人生への問いと結び付けて考察する。 プラトン、アリストテレス、ヘレニズムの思想が人間の存在や価値をいかに論じたかを理解させ、良識ある公民とはいかに在るべきか、いかに生きるべきかという自己の課題について、多面的・多角的に考察する。 	○	○	○	7
7	<p>第2章 唯一神の宗教：キリスト教・イスラーム教 第1節 愛の教え—キリスト教 1 ユダヤ教 2 イエスの思想 3 世界宗教への展開</p> <p>第2節 戒律と平等の教え—イスラーム教 (1 学期期末考査)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 世界宗教としてのキリスト教とイスラーム教の知見を手掛かりに、幸福、愛、徳に着目して、人間としての在り方生き方についての思索を深める。 ユダヤ教、キリスト教、イスラーム教の一神教が神と人間の関係をどのように捉えたか、相互の比較を通して理解を深める。 キリスト教の原罪や恩寵を特徴とする人間観や神の愛や隣人愛の理解を通して、自己の課題と結び付けて考察する。 イスラーム教の宗教的な義務や戒律などの倫理に関する諸概念の理解を通して、共同体の在り方や人間相互のつながりについて自己の課題と結び付けて考察する。 	○	○	○	8
8	<p>第3章 東洋思想の源流：仏教・儒教 第1節 智恵と慈悲の教え—仏教 1 バラモン教 2 仏陀の思想</p>	<ul style="list-style-type: none"> 世界宗教としての仏教の知見を手掛かりに、幸福、愛、徳に着目して、人間としての在り方生き方についての思索を深める。 仏教の人間観や人生観を理解し、生の苦悩とその克服といった課題を、自己の課題と重ね合わせて考察する。 仏教の生命あるもの全てに対する慈悲の教えを通して、共同体の在り方や人間相互のつながりについて自己の課題と結び付けて考察する。 	○	○	○	5
9	<p>3 仏教とその後の展開 第2節 仁と礼の教え—儒教 1 儒家の教え</p>	<ul style="list-style-type: none"> 世界宗教としての仏教の知見を手掛かりに、幸福、愛、徳に着目して、人間としての在り方生き方についての思索を深める。 孔子や孟子の言行や宋学の思想の理解を通して、人間についての見方や、望ましい人間関係の在り方に 	○	○	○	5

<p>2 儒教の展開 3 道家の思想</p>	<p>ついて自己の課題と結び付けて思索を深める。 ・老子や荘子の思想における人間観を理解し、人間としての在り方生き方についての思索を深める。</p>				
<p>第3編</p>	<p>・人間の尊厳を論じたルネサンス、宗教改革、モラリストの思想を通して、幸福、愛、徳に着目して、人生への問いや人間の存在や価値について、自己の課題と結び付けて考察する。</p>	○	○	6	
<p>第1節 人間の尊厳</p>	<p>・自然と人間との関わりや世界を捉える知の在り方を論じた近代科学の思考法、経験論と合理論を通して、真理や存在に着目して、人間の認識と経験を考察する。</p>			7	
<p>1 ルネサンスとヒューマニズム</p>	<p>・民主社会と人間の在り方や人間の尊厳、自己実現と幸福を論じた近代の諸思想を通して、善、正義、義務に着目して、自己の価値観を確立するとともに他者の価値観を尊重することの大切さを理解し、社会の在り方と人間としての在り方生き方について考察する。</p>	○	○	10	
<p>2 宗教改革と人間の内面</p>	<p>・民主社会における人間の在り方を論じた現代の諸思想を通して、善、正義、義務などに着目し、社会の在り方と人間としての在り方生き方について考察する。</p>	○	○		
<p>3 人間の偉大と限界 (2学期中間考査)</p>	<p>・自己実現と幸福を論じた実存主義の思想を通して、幸福、愛、徳に着目し、人生への問いや人間の存在や価値について自己の課題と結び付けて考察する。</p>	○	○		
<p>第2節 真理の認識—経験論と合理論</p>	<p>・世界を捉える知の在り方を論じた現象学を通して、真理、存在に着目し、世界と人間の在り方について自己の課題と結び付けて考察する。</p>				
<p>1 近代科学の思考法</p>	<p>・社会参加と奉仕を実践した先人たちの事例を通して、善、正義、義務に着目し、主体的に社会に参加することの大切さについて理解を深める。</p>				
<p>2 事実と経験の尊重—ベーコン</p>	<p>3 世界と存在そのもの—現象学</p>				
<p>3 理性の光—デカルト</p>	<p>4 公共性と正義</p>				
<p>第3節 民主社会と倫理</p>	<p>5 社会参加と他者への奉仕 (学年末考査)</p>				
<p>1 社会契約説と啓蒙思想</p>	<td data-bbox="1157 2060 1212 2094"></td> <td data-bbox="1212 2060 1268 2094"></td> <td data-bbox="1268 2027 1324 2060"></td> <td data-bbox="1324 2027 1436 2060"></td>				
<p>2 人格の尊厳と自由—カント</p>	<td data-bbox="1157 2150 1212 2184"></td> <td data-bbox="1212 2150 1268 2184"></td> <td data-bbox="1268 2116 1324 2150"></td> <td data-bbox="1324 2116 1436 2150"></td>				
<p>3 自己実現と自由—ヘーゲル</p>	<td data-bbox="1157 2240 1212 2240"></td> <td data-bbox="1212 2240 1268 2240"></td> <td data-bbox="1268 2206 1324 2240"></td> <td data-bbox="1324 2206 1436 2240"></td>				
<p>4 幸福と功利</p>	<td data-bbox="1157 2329 1212 2240"></td> <td data-bbox="1212 2329 1268 2240"></td> <td data-bbox="1268 2296 1324 2240"></td> <td data-bbox="1324 2296 1436 2240"></td>				
<p>5 創造的知性と幸福 (2学期期末考査)</p>	<td data-bbox="1157 2419 1212 2240"></td> <td data-bbox="1212 2419 1268 2240"></td> <td data-bbox="1268 2385 1324 2240"></td> <td data-bbox="1324 2385 1436 2240"></td>				
<p>第4節 現代社会と個人</p>	<td data-bbox="1157 2508 1212 2240"></td> <td data-bbox="1212 2508 1268 2240"></td> <td data-bbox="1268 2475 1324 2240"></td> <td data-bbox="1324 2475 1436 2240"></td>				
<p>1 資本主義社会への批判</p>	<td data-bbox="1157 2598 1212 2240"></td> <td data-bbox="1212 2598 1268 2240"></td> <td data-bbox="1268 2564 1324 2240"></td> <td data-bbox="1324 2564 1436 2240"></td>				
<p>2 人間存在の地平—実存主義</p>	<td data-bbox="1157 2688 1212 2240"></td> <td data-bbox="1212 2688 1268 2240"></td> <td data-bbox="1268 2654 1324 2240"></td> <td data-bbox="1324 2654 1436 2240"></td>				
<p>3 世界と存在そのもの—現象学</p>	<td data-bbox="1157 2777 1212 2240"></td> <td data-bbox="1212 2777 1268 2240"></td> <td data-bbox="1268 2744 1324 2240"></td> <td data-bbox="1324 2744 1436 2240"></td>				
<p>4 公共性と正義</p>	<td data-bbox="1157 2867 1212 2240"></td> <td data-bbox="1212 2867 1268 2240"></td> <td data-bbox="1268 2833 1324 2240"></td> <td data-bbox="1324 2833 1436 2240"></td>				
<p>5 社会参加と他者への奉仕 (学年末考査)</p>	<td data-bbox="1157 2956 1212 2240"></td> <td data-bbox="1212 2956 1268 2240"></td> <td data-bbox="1268 2923 1324 2240"></td> <td data-bbox="1324 2923 1436 2240"></td>				

※学習状況により、進度・内容を変更することがあります。

普通科 2年		政治経済		年間授業計画 (シラバス)	
科目名	政治経済	対象	進学文系 I・II	コース	単位数 2 単位
教科書	『高等学校 政治経済』		出版社 清水書院		
副教材	『高等学校 政治経済 ワークノート』 (清水書院) ・ 『政治・経済資料 2024 年度用』 (とうほう) 『政経データバンク - 一問一答 -』 (清水書院)				

1 学習の到達目標

<p>① 広い視野にこころ、国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成する。</p> <p>② 現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論を理解する。</p> <p>③ 資料から社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べ、まとめる技能を身に付ける。</p> <p>④ 現実社会の複雑な課題を把握し、構想する力、公正に判断する力、合意形成や社会参画に向かう力な、現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養う。</p> <p>⑤ 公民として自国を愛し、平和と繁栄を図ることや、我が国及び国際社会において国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとする自覚を深めさせる。</p>

2 評価の観点・内容・方法、及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の内容	現代日本における政治・経済の諸課題およびグローバル化する国際社会の諸課題について、基礎的基本的な知識を身につけ、理解を深めている。また諸資料から課題の解決に向けて考察、構想する際に必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取る技能を身に付けている。	現代日本における政治・経済の諸課題およびグローバル化する国際社会の諸課題について多面的・多角的に考察、構想し、表現できている。	よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。また、知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取り組みを行おうとしている。
評価の方法	定期考査 学力テスト 小テスト レポート 授業観察など	定期考査 学力テスト レポート 授業観察など	学習課題 ワークシート レポート ノート 授業観察など

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめます。

評価の内容 「知識・技能：思考」「判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」 = 1 : 1 : 1

3 学習計画

※評価の観点：a（知識・技能），b（思考・判断・表現），c（主体的に学習に取り組む態度）

月	学習単元	主な学習内容と到達目標	評価の観点			時間数
			a	b	c	
4	ガイダンス 第1編 現代日本の政治・経済 第1章 現代政治のしくみと日本	・年間進度を確認し，体験学習を通じて学習方法を学ぶ。	○		○	1
5	1 政治とはなにか 2 法とはなにか 3 現代民主政治へのあゆみと基本原理 4 議会制民主主義と世界の政治体制 (一学期中間考査) 5 日本国憲法の成立と基本原理 6 基本的人権と新しい人権	・一年次の学習内容を発展させに現代政治について理解を深める。 ・法は社会規範の一つであり，国家による強制を伴う点で道徳や慣習とは異なることを理解する。また法は個人や集団の権利を擁護すると共に社会の秩序を維持する機能を有していることを理解する。	○	○	○	19
6	7 平和主義と安全保障	・日本国憲法が保障している基本的人権の確立の歴史的背景，経緯，政治制度との関連について考察する。 ・自由権的基本権，平等権，参政権について，理解する。 ・社会権的基本権について，近代から現代にかけての政府の機能の変化の過程で登場してきたものであることを理解し，教育，労働，福祉に関わる社会制度の整備と社会権的基本権の関連を考察する。 ・社会の変化に応じて求められる新しい人権について理解する。	○	○	○	
7	8 日本の政治機構 9 政党政治と選挙制度 10 地方自治 (一学期期末考査) 第2章 現代の経済のしくみと日本	・日本国憲法の平和主義を理解するとともに，日本の安全保障と防衛について理解を深める。 ・国民権，議会制民主主義，権力分立，議院内閣制，違憲審査制の概念や政治理論の理解を深める。 ・地方自治は住民自治と団体自治の下で行われ，民主政治の基盤をなすものであることを理解する。	○	○	○	
8	1 経済活動と経済主体 2 市場経済の機能と限界	・市場経済や計画経済について理解する。 ・経済主体について理解し，これら経済主体間の相互関係が国民経済を構成していることを理解する。 ・市場の競争性が維持されている場合でも公共財の提供がされにくいことや市場の失敗があることを理解する。	○	○	○	25
9	3 国民経済と景気変動 4 物価とその変動 5 金融のしくみとはたらき	・情報の非対称性の観点から家計・企業・政府間の情報格差について理解する。 ・インフレ，デフレについて理解する。 ・経済成長と景気変動を因る様々な指標の特色を理解する。 ・金融とは経済主体間の資金の融通であることを理解する。	○	○	○	

10	6 財政のしくみと働き	<ul style="list-style-type: none"> ・資金の需給は金融市場における金利の変化や株式市場と債券市場の動向によって調節されることを理解する。 ・金融市場における金利の動向が消費や貯蓄、投資行動に影響したり物価や株価、景気の変動に大きな役割を果たしていることを理解する。 ・金融業務の自由化や金利の自由化に伴う金融に関する経済環境の変化による国民経済や家計や企業に向けての影響について理解する。 ・有効需要政策の意味と役割、金融に関する技術変革について理解し、これからの社会に及ぼす影響を考える。 	○	○	○	
11	(二学期中間考査)	<ul style="list-style-type: none"> ・財政を国家財政と地方財政の双方から把握し、両者の役割分担や連携の在り方について考え、望ましい財政の在り方について考える。 	○	○	○	
	7 日本経済のあゆみ	<ul style="list-style-type: none"> ・企業は、提供された生産要素を結合して生産活動を行うことを理解する。 	○	○	○	
	8 企業の活動と役割	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の労使関係の特色や、勤労の権利と義務、労働基本権の保障、労働条件の改善、労働組合の役割について理解する。 	○	○	○	
	9 労働問題と労働環境の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・中小企業にはベンチャー企業のように経済的に大きな役割を果たしているものがある一方で、下請けとして大企業との間には是正すべき格差社会が存在しているということを理解する。 	○	○	○	18
12	10 社会保障制度の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・医療や年金といった社会保障費の財政負担が大きな問題となっていることを日本の社会保障制度の歩みや特色とともに理解する。 	○	○	○	
	11 農業と食糧問題	<ul style="list-style-type: none"> ・農業問題としては、日本の食料自給率が他の先進国とくらべて低く、日本の農業の体質強化が課題とされていることを理解する。 	○	○	○	
1	(二学期期末考査)		○	○	○	
	第3章 現代日本の諸課題		○	○	○	
2	1 地域社会の自立と中央政府の役割とはなにか？	<ul style="list-style-type: none"> ・市場経済においては市場の失敗として環境破壊があることを外部不経済の視点から理解する。 	○	○	○	
	2 持続可能な社会保障制度は実現できるか？	<ul style="list-style-type: none"> ・地域社会の特徴と課題を理解し、課題解決に向けて地域社会が取り組むべきことと中央政府が果たすべき役割を考察し政策を提言する。 	○	○	○	
3	3 多様な働き方ができる社会とはどのような社会か？	<ul style="list-style-type: none"> ・社会保障制度の特徴と課題を理解し、課題解決に向けた政策を提言する。 				
	4 安全・安心な社会を実現するには？	<ul style="list-style-type: none"> ・雇用の変化や労働時間の変化ワークライフバランスについての特徴と課題を理解し、課題解決に向けた政策を提言する。 				
	5 歳入・歳出両面での財政健全化とは？	<ul style="list-style-type: none"> ・安全で安心な社会を阻む要因を考察し、望ましい社会の在り方を考察し、望ましい社会の建設に向けた政策を提言する。 				
	(三学期期末考査)	<ul style="list-style-type: none"> ・財政の特徴と課題を理解し、持続可能な財政の実現に向けた政策を提言する。 				

地理歴史科 2年		世界史探究		年間授業計画 (シラバス)	
科目名	世界史探究	対象	特進	コース	単位数 4単位
教科書	世界史探究 詳説世界史		出版社 山川出版社		
副教材	最新世界史図説タペストリー [二十訂版] (帝国書院)		世界史B用語集 (山川出版社)		
	世界史探究 詳説世界史 10分間テスト (山川出版社)		新世界史研究ノート [応用編] (啓隆社)		
	短期攻略 大学入学共通テスト世界史B (駿台文庫)				

1 学習の到達目標

<p>社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を身に付ける。</p> <p>① 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連づけながら理解するとともに、諸資料から世界の歴史に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。</p> <p>② 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>③ 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。</p>
--

2 評価の観点・内容・方法、及び成績評価の方法

① 評価の観点・内容・方法

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の内容	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解しているとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりしている。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとしている。
評価の方法	定期考査	定期考査	学習課題 (問題集, プリント) 授業観察など

② 成績評価の方法

評価の内容: 「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点を各100点満点計300点満点で算出し、それを3で割った点数(100点法)を評点とします。学年末に評定(5段階)にまとめます。

3 学習計画

※評価の観点：a（知識・技能），b（思考・判断・表現），c（主体的に学習に取り組む態度）

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と 到 達 目 標	評価の観点			時間数
			a	b	c	
4	ガイダンス [序章] 世界史へのまなざし	・予習復習の体験学習をする。			○	1
		・人類が自然環境に適応しながら進化したこと，及びその過程を理解する。	○	○	○	1
		・現在と異なる過去や現在につながる過去に触れ，世界史学習の意味や意義に気づく。	○	○	○	1
	[第1章] 文明の成立と古代文明 の特質	・古代オリエントの諸文明，インダス文明，中華文明並びに東アジアの古代国家・文化，及び南北アメリカ大陸の文明の形成過程に触れ，古代文明の歴史的特質を理解する。	○	○	○	15
5	【一学期中間考査】		○	○	○	1
	[第2章] 中央ユーラシアと東アジア世界	・内陸アジア地域に出現した遊牧民の文化，秦・漢帝国の形成・発展過程，魏晋南北朝時代の変遷，隋・唐帝国の形成・発展過程，及びトルコ・イラン系の遊牧国家と東アジア世界の関わりに触れ，中央ユーラシアと東アジア世界双方の歴史的特質並びに関係性を理解する。	○	○	○	15
6	[第3章] 南アジア世界と東南アジア世界の展開	・アーリヤ人の進出以後の南アジアの文化，社会，国家の形成過程に触れ，南アジア世界の歴史的特質を理解する。	○	○	○	5
		・東南アジアの地理的特質，文化，国家の形成過程に触れ，東南アジア世界の歴史的特質を理解する。	○	○	○	3
7	【一学期期末考査】		○	○	○	1
8	[第4章] 西アジアと地中海周辺の国家形成	・古代オリエントの統一，イラン系民族の諸活動，古代ギリシアとヘレニズム世界の形成過程，都市国家ローマの形成と大帝国建設の過程，及びキリスト教の成立とその拡大について触れ，西アジアと地中海周辺の歴史的特質を理解する。	○	○	○	18
9	[第5章] イスラーム教の成立とヨーロッパ世界の形成 東アジアと中央ユーラシア	・イスラーム世界の形成過程，中世初期の東西ヨーロッパの情勢，及び西ヨーロッパにおける封建社会の形成過程に触れ，西アジア・北アフリカ並びに東西ヨーロッパ地域の歴史的特質を理解する。	○	○	○	15
10	【二学期中間考査】		○	○	○	1

10	[第6章] イスラーム教の伝播と 西アジアの動向	・イスラーム世界の拡大と複数の国家・地域への分裂過程、及びイスラーム文明の広がりにつれ、西アジア地域の変容と特質を理解する。	○	○	○	8
11	[第7章] ヨーロッパ世界の変容 と展開	・9世紀から15世紀にかけての東西ヨーロッパ世界の動向につれ、同世界の政治、経済、社会、及び文化の変遷と、その歴史的特質を理解する。	○	○	○	16
12	[第8章] 西アジア世界の展開と モンゴル帝国	・内陸アジア諸民族と周辺諸地域世界との関わりにつれ、東アジア北方の諸民族の動向、唐王朝滅亡後の東アジア世界の変容、およびモンゴル帝国の興亡とその影響を理解する。	○	○	○	11
	【二学期期末考査】		○	○	○	1
1	[第9章] 大交易・大交流の時代	・14世紀から17世紀にかけてのアジア諸地域の動向につれ、明王朝の歴史的特質と東アジア世界への影響を理解する。	○	○	○	7
		・ヨーロッパの海洋進出と、それを発端とするアメリカ大陸の変容につれ、「世界の一体化」の歴史的特質を理解する。	○	○	○	4
2	[第10章] アジアの諸帝国の繁栄	・13世紀から18世紀までのアジア諸地域の動向につれ、イスラームを受容したトルコ・イラン・インド各地域の歴史的特質、及び清王朝の歴史的特質と東アジア世界への影響を理解する。	○	○	○	8
3	[第11章] 近世ヨーロッパ世界の 動向	・15世紀から18世紀までのヨーロッパ世界の動向につれ、ルネサンスの歴史的特質、ヨーロッパ各地における主権国家体制の形成過程とその歴史的特質、及び17～18世紀の文化の特色について理解する。	○	○	○	15
	【学年末考査】		○	○	○	1

※学習状況により、進度・内容を変更することがあります。

地理歴史 科 2 年 日本史探究 年間授業計画 (シラバス)						
科目名	日本史探究	対象	特進文系	コース	単位数	4 単位
教科書	『詳説日本史 日本史探究』		出版社 山川出版社			
副教材	『日本史用語集 (A・B共用)』 (山川出版社)		『第10版詳説日本史図録』 (山川出版社)			
	『2023新課程版ステップアップ日本史』 (啓隆社)					

1 学習の到達目標

<p>① 我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界史と関連付けて総合的に考察する。</p> <p>② 我が国の伝統と文化の特色についての認識を深める。</p> <p>③ 歴史的思考力を培い国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。</p>
--

2 評価の観点・内容・方法及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の趣旨	歴史的資料を収集し、資料から必要な情報を読み取る技能や、課題解決に必要な知識を身に着けている。	歴史的資料の特性を踏まえ、読み取った情報から、その時代的・地域的特色を多面的・多角的に考察し、仮説などを表現できる。	我が国の歴史の学習に主体的に臨み、より深い学びを得るための工夫を積極的に行っている。
評価の方法	ノート提出 問題集提出	定期考査 課題プリント	定期考査 課題プリント

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめます。

評価の内容 「知識・技能：思考」「判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」 = 1 : 1 : 1

3 学習計画

月	学習単元	主な学習内容と到達目標	評価の観点			時間数
			a	b	c	
4	ガイダンス (体験学習等) 第I部 原始・古代 第1章 日本文化のあけぼの 1 文化のはじまり 2 農耕社会の成立 第2章 古墳とヤマト政権 1 古墳文化の展開 2 飛鳥の朝廷 第3章 律令国家の形成	<ul style="list-style-type: none"> 予習復習の体験学習をする。日本史学習のモデルスタイル等の説明を理解する。 考古学的成果により日々新たな発見が加わる可能性を意識する。 大和政権の発展を、朝鮮半島諸国の動きと関連付けて学ぶ。 資料を用い、文献を踏まえて古代社会に触れる。 聖徳太子の政治、大化の改新以降の政治と律令国家体制、奈良時代の政治を史料もまじえて学ぶ。 天皇中心の中央集権国家建設を目指していることを理解する。 	○	○	○	20
5	1 律令国家への道 1 学期中間考査 2 平城京の時代 3 律令国家の文化 4 律令国家の変容 第4章 貴族政治の展開	<ul style="list-style-type: none"> 資料を活用し、文化の特色について学ぶ。 桓武・嵯峨天皇の政治改革の特色と、藤原氏が他氏排斥によって政権を獲得したことを学ぶ。 遣唐使の廃止が、文化に影響を及ぼしたことを理解する。 	○	○	○	20

6	1 摂関政治 2 国風文化 3 地方政治の展開と武士	・後三条天皇の政治が院政へ発展していくことを学ぶ。	○	○	○	
7	1 学期期末考査	・武士が政権を握るまでに至った背景や影響を理解する。	○	○	○	20
8	第Ⅱ部 中世					
9	第5章 院政と武士の躍進	・北条氏による執権政治の成立と発展の過程について学ぶ。	○	○	○	
	1 院政の始まり	・元寇後の御家人体制の動揺と鎌倉幕府の滅亡、	○	○	○	
	2 院政と平氏政権	建武の新政から室町幕府の成立と全盛期について学ぶ。	○	○	○	
10	第6章 武家政権の成立					
	1 鎌倉幕府の成立	・建武の新政を通して鎌倉幕府から室町幕府への過渡期の政治状況を理解する。	○	○	○	
	2 武士の社会	・幕府が衰退していった、原因と背景について学ぶ。	○	○	○	
	3 モンゴル襲来と幕府の衰退	・室町文化は日本の伝統芸術の源であることを理解する。	○	○	○	28
	4 鎌倉文化	・各地の戦国大名の支配の特徴を、史料をまじえながら学ぶ。	○	○	○	
	2 学期中間考査					
11	第7章 武家社会の成長					
	1 室町幕府の成立	・織田信長、豊臣秀吉による天下統一までの過程について理解する。	○	○	○	
	2 幕府の衰退と庶民の台頭					
	3 室町文化					
12	4 戦国大名の登場					
1	2 学期期末考査	・史料をまじえ、江戸初期の外交と鎖国に至るまでの経緯とメリット・デメリットを考える。	○	○	○	24
	第Ⅲ部 近世	・武断政治から文治政治へ転換したこと。財政改革が幕府の今後の課題になることなどを理解する。	○	○	○	
	第8章 近世の幕開け	・江戸時代に発展した町人文化を学ぶ。	○	○	○	
	1 織豊政権					
2	2 桃山文化					
	第9章 幕藩体制の成立と展開					
	1 幕藩体制の成立					
	2 幕藩社会の構造					
3	3 幕政の安定					
	4 経済の発展					
	5 元禄文化					
	3 学期期末考査					

※学習状況により、進度・内容を変更することがあります。

地理歴史 科 2 年		地理探究		年間授業計画 (シラバス)	
科目名	地理探究	対象	特進理系	コース	単位数 3 単位
教科書	新詳地理探究, 新詳高等地図			出版社	帝国書院
副教材	新編地理資料 2023 (とうほう), '24 新地理の研究 (啓隆社), 2024 年版 地理統計 Plus (帝国書院)				

1 学習の到達目標

① 社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を身に付ける。
② 地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
③ 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
④ 地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとするものの大切さについての自覚などを深める。

2 評価の観点・内容・方法、及び成績評価の方法

① 評価の観点・内容・方法

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の内容	地図や地理情報システムなどの読み取りを通して、地球的な視野から地理的事象の空間的な規則性、傾向性や関連する課題の発生要因について理解することで、現代世界の諸事象の地理的認識を深めている。	地理的事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりすることができる。	知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取り組みを行おうとしている。また、粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている。
評価の方法	定期考査 学力テスト 単元テスト 小テスト レポート 授業観察など	定期考査 学力テスト 単元テスト 小テスト レポート 授業観察など	学習課題 ワークシート レポート ノート 授業観察など

② 成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめます。

評価の内容 知識・技能：思考・判断・表現：主体的に学習に取り組む態度 = 1：1：1

3 学習計画

※評価の観点：a（知識・技能），b（思考・判断・表現），c（主体的に学習に取り組む態度）

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と 到 達 目 標	評価の観点			時間数
			a	b	c	
4	ガイダンス 1-1-1 ○地形	○1年間の進め方 予習復習について ○営力的な視点からさまざまな地形の分布や成因を理解し，人間生活との関わりを考察する。				1
5	1-1-2 ○気候 【1学期中間テスト】	○気候要素と気候因子の関係から成り立ちを理解し，人間生活への影響を考察する。	○	○	○	7
	1-1-3 ○日本の自然環境		○	○	○	8
6	1-1-4 ○地球環境問題 1-2-1 ○農林水産業	○日本の地形と気候の特徴とこれらによる自然災害の特徴を理解するとともに，防災のあり方を考察する。 ○成因や特徴と対策，地域的な分布を大観し，各事例を考察する。 ○農業地域区分やその現状と課題，及び世界の中での日本の課題を考察する。	○	○	○	4
	1-2-2 ○食糧問題 【1学期期末テスト】	○世界の食料需給の地域的なかたよりを大観し，発展途上国，先進国，日本についての事例を考察する。	○	○	○	4
8						6
9	1-2-3 ○エネルギー・鉱産資源 1-2-4 ○資源・エネルギー問題	○エネルギー資源の利用と分布，鉱産資源の分布を考察する。 ○資源・エネルギー問題を大観し，その現状を理解するとともに，生産や消費が抱える課題を考察する。	○	○	○	4
	1-2-5 ○工業 1-2-6 ○第3次産業	○工業の発達や立地，世界の工業地域や，世界の工業の現状と課題，及び日本の工業の課題を考察する。 ○現代世界の第3次産業の発展と，世界と日本の観光業の特色を考察する。	○	○	○	4
10	1-3-1 ○交通・通信 1-3-2 ○観光 1-3-3 ○貿易と経済圏 【2学期中間テスト】	○交通や通信の発達による一体化と地域差を考察する。 ○観光産業を盛んにしようとする取り組みや，観光の特色や利点を考察する。 ○拡大を続けている貿易において，地域性や地域間格差について考察する。	○	○	○	3
	1-4-1 ○人口 1-4-2 ○人口問題	○世界人口の分布の特色や動態，人口構成や人口転換を考察する。 ○世界の人口問題を大観し，発展途上国，先進国，日本の人口問題の事例を考察する。	○	○	○	4
11	1-4-3 ○村落と都市	○村落・都市の立地や発達・機能や，日本の都市の特徴を考察する。	○	○	○	3
						6

12	1-4-4 ○都市・居住問題	○都市・居住問題を大観し、その要因と発生のしくみを、各国の事例をもとに考え、解決策を考察する。 ○オーストラリアとニュージーランドの自然、産業、文化などを理解・考察する。	○	○	○	4
	2-2-11 ○オーストラリアとニュージーランド		○	○	○	5
【2学期末テスト】						
1	2-2-9 ○アメリカ合衆国	○アメリカ合衆国の自然、産業、文化などを理解・考察する。 ○中国の自然、産業、文化などを理解・考察する。	○	○	○	5
2	2-2-1 ○中国		○	○	○	5
3	2-2-3 ○ASEAN 諸国	○ASEAN 諸国の自然、産業、文化などを理解・考察する。 ○インドの自然、産業、文化などを理解・考察する。	○	○	○	6
	2-2-4 ○インド		○	○	○	4
【学年末テスト】						

※学習状況により、進度・内容を変更することがある。

公民 科 2 年 倫理 年間授業計画 (シラバス)						
科目名	倫理	対象	特進文系	コース	単位数	3 単位
教科書	高等学校新倫理新訂版				出版社	清水書院
副教材	高等学校新倫理新訂版ワークノート・完全MASTER 大学入試共通テスト倫理+公共問題集 (清水書院) ・最新図説倫理 (浜島書店)					

1 学習の到達目標

- ①人間としての在り方生き方についての見方・考え方を働かせる。
 ②現代の諸課題を追求したり解決に向けて構想したりする活動を行う。
 ③広い視野に立ち、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力を育成する。

2 評価の観点・内容・方法, 及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の内容	<ul style="list-style-type: none"> 古今東西の幅広い知的蓄積を通して、現代の諸課題を捉え、より深く思索するための手掛かりとなる概念や理論について理解している。 諸資料から、人間としての在り方生き方に関わる情報を調べまとめることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自立した人間として、他者と共によりよく生きる自己の生き方について、より深く思索することができる。 現代の倫理的諸課題を解決するために倫理に関する概念や理論などを活用して、理論的に思考し、説明したり対話したりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 人間としての在り方生き方に関わる事象や課題について主体的に追究したり、他者と共によりよく生きる自己を形成しようとしている。 多面的・多角的な考察やより深い思索を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚を深めている。
評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> 小テスト 定期テスト ワークシート レポート ノート提出 グループワーク 観察など 	<ul style="list-style-type: none"> 小テスト 定期テスト ワークシート レポート ノート提出 グループワーク 観察など 	<ul style="list-style-type: none"> 小テスト 定期テスト ワークシート レポート, 課題提出 ノート提出 グループワーク 観察など

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめます。

評価の内容 「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」 1 : 1 : 1

3 学習計画

※評価の観点：a (知識・技能), b (思考・判断・表現), c (主体的に学習に取り組む態度)

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と 到 達 目 標	評 価 の 観 点			時 間 数
			a	b	c	
4	ガイダンス (体験学習など) 序章 人間とは何か	予習復習の体験学習をする。		○	○	1
	第1編 第1章 1心の機能と個性 2パーソナリティの形成と「私」	さまざまな人間観の理解を通して人間の多様な在り方に思索を向けさせるとともに、人間存在への問いから現代の諸課題を探究することを理解する。				1
	第2章 1人間の活動を支える心 2認知のしくみ 3生涯にわたる発達	心のあり方を科学的に探究してきた心理学の知見を手がかりに、欲求や感情、認知、発達に着目して、青年期の課題を踏まえ豊かな自己形成に向けて、他者と共によりよく生きる自己の生き方についての思索を深める。	○	○	○	4
5	第2編 第1章 哲学の始源：ギリシア思想 1神話から哲学へ—自然哲学者たち 2知と徳をめぐる問い—ソクラテス 3理想主義的なあり方—プラトン 4現実主義的なあり方—アリストテレス	<ul style="list-style-type: none"> 西洋社会の根幹にあり、現代の合理主義の由来となる古代ギリシアの思想の知見を手掛かりに、幸福、愛、徳に着目して、人間としての在り方生き方についての思索を深める。 古代ギリシアの理性をもつ人間という人間観の理解を通して、自分の考えを論理的、批判的に吟味する力や対話する力などを身につけることが大切であることを自覚する。 ソクラテスの思索が人間としての自覚の第一歩であることを自覚させ、各自の人生への問いと結び付けて考察する。 				4
6	5幸福をめぐる問い—ヘレニズムの思想 (1学期中間考査) 第2章 唯一神の宗教：キリスト教・イスラーム教 第1節 愛の教え—キリスト教 1ユダヤ教 2イエスの思想 3世界宗教への展開 第2節 戒律と平等の教え—イスラーム教 第3章 東洋思想の源流：仏教・儒教 第1節 智慧と慈悲の教え—仏教 1バラモン教	<ul style="list-style-type: none"> プラトン、アリストテレス、ヘレニズムの思想が人間の存在や価値をいかに論じたかを理解させ、良識ある公民とはいかに在るべきか、いかに生きるべきかという自己の課題について、多面的・多角的に考察する。 世界宗教としてのキリスト教とイスラーム教の知見を手掛かりに、幸福、愛、徳に着目して、人間としての在り方生き方についての思索を深める。 ユダヤ教、キリスト教、イスラーム教の一神教が神と人間の関係をどのように捉えたか、相互の比較を通して理解を深める。 キリスト教の原罪や恩寵を特徴とする人間観や神の愛や隣人愛の理解を通して、自己の課題と結び付けて考察する。 イスラーム教の宗教的な義務や戒律などの倫理に関する諸概念の理解を通して、共同体の在り方や人間相互のつながりについて自己の課題と結び付けて考察する。 世界宗教としての仏教の知見を手掛かりに、幸福、 				8
			○	○		7
						8

7	<p>2 仏陀の思想</p> <p>3 仏教とその後の展開</p> <p>第2節 仁と礼の教え—儒教</p> <p>1 儒家の教え</p> <p>2 儒教の展開</p> <p>3 道家の思想 (1 学期期末考査)</p>	<p>愛、徳に着目して、人間としての在り方生き方についての思索を深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 仏教の人間観や人生観を理解し、生の苦悩とその克服といった課題を、自己の課題と重ね合わせて考察する。 ・ 仏教の生命あるもの全てに対する慈悲の教えを通して、共同体の在り方や人間相互のつながりについて自己の課題と結び付けて考察する。 ・ 孔子や孟子の言行や宋学の思想の理解を通して、人間についての見方や、望ましい人間関係の在り方について自己の課題と結び付けて思索を深める。 ・ 老子や荘子の思想における人間観を理解し、人間としての在り方生き方についての思索を深める。 				
8	<p>第3編</p> <p>第1節 人間の尊厳</p> <p>1 ルネサンスとヒューマニズム</p> <p>2 宗教改革と人間の内面</p> <p>3 人間の偉大と限界</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人間の尊厳を論じたルネサンス、宗教改革、モラリストの思想を通して、幸福、愛、徳に着目して、人生への問いや人間の存在や価値について、自己の課題と結び付けて考察する。 	○	○		5
9	<p>第2節 真理の認識—経験論と合理論</p> <p>1 近代科学の思考法</p> <p>2 事実と経験の尊重—ベーコン</p> <p>3 理性の光—デカルト</p> <p>第3節 民主社会と倫理</p> <p>1 社会契約説と啓蒙思想</p> <p>2 人格の尊厳と自由—カント</p> <p>3 自己実現と自由—ヘーゲル</p> <p>4 幸福と功利</p> <p>5 創造的知性と幸福 (2 学期中間考査)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自然と人間との関わりや世界を捉える知の在り方を論じた近代科学の思考法、経験論と合理論を通して、真理や存在に着目して、人間の認識と経験を考察する。 ・ 民主社会と人間の在り方や人間の尊厳、自己実現と幸福を論じた近代の諸思想を通して、善、正義、義務に着目して、自己の価値観を確立するとともに他者の価値観を尊重することの大切さを理解し、社会の在り方と人間としての在り方生き方について考察する。 	○	○	○	6
10	<p>第4節 現代社会と個人</p> <p>1 資本主義社会への批判</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 民主社会における人間の在り方を論じた現代の諸思想を通して、善、正義、義務などに着目し、社会の在り方と人間としての在り方生き方について考察する。 	○	○		7
11	<p>2 人間存在の地平—実存主義</p> <p>3 世界と存在そのもの—現象学</p> <p>4 公共性と正義</p> <p>5 社会参加と他者への</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自己実現と幸福を論じた実存主義の思想を通して、幸福、愛、徳に着目し、人生への問いや人間の存在や価値について自己の課題と結び付けて考察する。 ・ 世界を捉える知の在り方を論じた現象学を通して、真理、存在に着目し、世界と人間の在り方について自己の課題と結び付けて考察する。 	○	○		10

12	奉仕 (2学期期末考査)	・社会参加と奉仕を实践した先人たちの事例を通して、善、正義、義務に着目し、主体的に社会に参加することの大切さについて理解を深める。				5
	第4編					
	第1章 日本の風土と精神文化					
1	第1節 日本人の人間観・自然観・宗教観	・日本人の人間観、自然観、宗教観の特質を、日本人の心情や考え方と風土との関わり、また日本的な美意識や自然との関わりに着目して、日本人としての自己意識と結び付けて、理解する。	○	○	○	7
	1 風土と日本人の生活					
	2 日本における神の観念					
2	3 神と仏の出会い					
	第2節 日本人の仏教受容					
3	1 古代仏教の思想	・外来思想である仏教を、日本独自の受容やその思想の形成と発展を通して、それらが日本人の思想形成にどのように影響を及ぼしたかを理解する。	○	○		9
	2 鎌倉仏教の思想					
	第3節 近世社会の思想					
	1 儒教の伝来と朱子学	・外来思想である儒教を、江戸時代における儒学諸派の形成を通して、それらが日本人の思想形成にどのように影響を及ぼしたかを理解する。				
	2 陽明学					
	3 古学					
	4 国学と日本文化 (学年末考査)	・古代の精神の究明に努めた国学が、古代の日本人の心情と考え方をどのように捉えたかを理解する。				

※学習状況により、進度・内容を変更することがあります。

地理歴史 科 3 年		地理探究		年間授業計画 (シラバス)	
科目名	地理探究	対象	スポーツ	コース	単位数
教科書	新詳地理探究, 新詳高等地図			出版社	帝国書院
副教材	新詳地理資料 COMPLETE 2022 (帝国書院), 新詳地理探究演習ノート (帝国書院)				

1 学習の到達目標

<p>① 社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を身に付ける。</p> <p>② 地理に関わる諸事象に関して、世界の空間的な諸事象の規則性、傾向性や、世界の諸地域の地域的特色や課題などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p> <p>③ 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、系統地理的、地誌的に、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>④ 地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする大切さについての自覚などを深める。</p>

2 評価の観点・内容・方法、及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の内容	地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解しているとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりしている。	地理に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。
評価の方法	定期考査 学力テスト 単元テスト 小テスト レポート 授業観察など	定期考査 学力テスト 単元テスト 小テスト レポート 授業観察など	学習課題 ワークシート レポート ノート 授業観察など

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめます。

評価の内容 知識・技能：思考・判断・表現：主体的に学習に取り組む態度 = 1：1：1

3 学習計画

※評価の観点：a（知識・技能），b（思考・判断・表現），c（主体的に学習に取り組む態度）

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と 到 達 目 標	評価の観点			時間数
			a	b	c	
4	ガイダンス	1年間の進め方 予習復習について				1
5	第2部 第2章 現代世界の諸地域 4 インド	インドの自然，産業，文化などを理解・考察する。	○	○		9
	5 西アジアと中央アジア	西アジアと中央アジアの自然，産業，文化などを理解・考察する。	○	○		9
	6 北アフリカと サハラ以南アフリカ	北アフリカとサハラ以南のアフリカの自然，産業，文化などを理解・考察する。	○	○		9
6	【1学期中間テスト】	EU諸国の自然，産業，文化などを理解・考察する。	○	○		12
7	7 EU諸国	ロシアの自然，産業，文化などを理解・考察する。	○	○		7
8	8 ロシア	ラテンアメリカの自然，産業，文化などを理解・考察する。	○	○		10
	10 ラテンアメリカ					
8	【1学期期末テスト】					
9	※基礎学力到達度テスト	※基礎学力到達度テストに向けての問題演習を行う。	○	○		15
10	※基礎学力到達度テスト					
11	問題演習	※諸地域の抱える課題について，系統地理的・地誌的の両面から考察していく。	○	○		30
	※諸地域の抱える課題について					
	【2学期期末テスト】	※諸地域の抱える課題について，系統地理的・地誌的の両面から考察していく。	○	○		9
	※諸地域の抱える課題について					

※学習状況により，進度・内容を変更することがあります。

地理歴史 科 3 年		発展日本史		年間授業計画 (シラバス)	
科目名	発展日本史	対象	スポーツ	コース	単位数 5 単位
教科書	『日本史探究 高校日本史』		出版社 山川出版社		
副教材	『日本史用語集(A・B共用)』 (山川出版社)		『第10版詳説日本史図録』 (山川出版社)		
	『2023年度新課程 要点整理ゼミナール日本史』 (浜島書店)				

1 学習の到達目標

① 我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界史と関連付けて総合的に考察する。
② 我が国の伝統と文化の特色についての認識を深める。
③ 歴史的思考力を培い国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

2 評価の観点・内容・方法及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の趣旨	歴史的資料を収集し、資料から必要な情報を読み取る技能や、課題解決に必要な知識を身に着けている。	歴史的資料の特性を踏まえ、読み取った情報から、その時代的・地域的特色を多面的・多角的に考察し、仮説などを表現できる。	我が国の歴史の学習に主体的に臨み、より深い学びを得るための工夫を積極的に行っている。
評価の方法	ノート提出 問題集提出	定期考査 課題プリント	定期考査 課題プリント

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめます。

評価の内容 「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」 1 : 1 : 1

3 学習計画

月	学習単元	主な学習内容と到達目標	評価の観点			時間数
			a	b	c	
4	ガイダンス (体験学習等) 第IV部 近代・現代 第9章 幕藩体制の成立と展開 3 幕政の安定 4 経済の発展 5 元禄文化	・予習復習の体験学習をする。日本史学習のモデルスタイル等の説明を理解する。			○	25
5	第10章 幕藩体制の動揺 1 幕政の改革と宝暦・天明期の文化 2 江戸幕府の衰退 3 化政文化	・武断政治から文治政治へ転換したこと。財政改革が幕府の今後の課題になることなどを理解する。 ・江戸時代に発展した町人文化を学ぶ。 ・社会・経済の発展により政治・財政改革が盛んに行なわれるが、大塩の乱や天保の改革の失敗により幕府権力が衰退していく過程を学ぶ。 ・文学は当時も世相を表す鏡であった。優れた芸術作品は海外に影響を与えた。洋学は国内の多くの知識人に影響を与え、独自のものを生み出した。	○	○	○	
	1 学期中間考査					
6	第IV部 近代・現代 第11章 近世から近代へ 1 開国とその影響	・長州藩と薩摩藩の行動を対比させながら、尊攘運動を考察させる。また、尊攘派志士の背後に豪農豪商層がいたことを理解する。 ・五箇条の御誓文、政体書のもつ開明性と五榜の掲	○	○	○	25
			○	○	○	

7	2 幕府の滅亡と新政府の発足 第12章 近代国家の成立 1 明治維新と富国強兵 2 立憲国家の成立	示の封建性の矛盾を検討することによって新政府の性格を理解する。 ・自由民権運動の思想的背景及びその階級的な性格、意義を考察する。	○	○	○	
8	1 学期期末考査		○	○	○	65
9	第13章 近代国家の展開と国際関係 1 大陸政策の展開	・日清戦争後、日本の対外膨張を支える国家主義が思想界の主流になったことを理解する。	○	○	○	
10	到達度テスト対策		○	○	○	
11	2 第一次世界大戦と日本 3 ワシントン体制 第14章 近代の産業と生活 1 近代産業の発展 2 近代の文化 3 市民文化の変容と大衆文化 第15章 恐慌と第二次世界大戦 1 恐慌の時代 2 軍部の台頭 3 第二次世界大戦	・日露戦争は帝国主義国間の対立を背景にして戦われたこと、及び日本国民の大多数は支配層の開戦強硬論に動かされていたことを説明する。日本資本主義の発展とともに社会問題が現れたことを理解する。 ・民衆勢力の台頭によって文化が少数の特権階級の独占物ではなくなり、いわゆる大衆文化が成立した点に留意する。 ・普通選挙法が成立したが、無産階級の台頭を恐れる政党は治安維持法を制定して社会運動に弾圧を加えたことを理解する。 ・戦後恐慌・金融恐慌・世界恐慌と次々に恐慌に見まわれ、ついに深刻な昭和恐慌に突入し、日本は対外侵略の道を歩むことになることを理解する。 ・満州事変に始まる日本の大陸進出の過程を通じて、世界の中における日本の立場が孤立していったことを理解する。	○	○	○	
	第16章 現代の世界と日本 1 占領下の改革と主権の回復	・財閥解体と農地改革が日本の民主化にもつ政治的・経済的・社会的な意義を理解する。 ・朝鮮戦争に際して、特需を土台に日本経済の復興が進められ、同時に戦後初期における民主化に逆行するような動きが起きてきたことにも注目する。 ・経済の高度成長に伴って、国民生活の向上が見られた反面、経済成長のひずみがどのように現れ、どのような社会問題を生み出したか検討する。 ・我々国民は、国家の主権者として、日本の進路を自主的な立場と態度をもって決定すべき重大な責任を担っていることを理解する。	○	○	○	10
	2 学期期末考査		○	○	○	
	2 55年体制と高度経済成長 3 現代の情勢					

※学習状況により、進捗・内容を変更することがあります。

地理歴史 科 3 年		発展世界史		年間授業計画 (シラバス)	
科目名	発展世界史	対象	進学文系	コース	単位数 5 単位
教科書	世界史探究		出版社 東京書籍		
副教材	最新世界史図説タペストリー [二十一訂版] (帝国書院) 世界史探究 詳説世界史 10 分間テスト (山川出版社) 新世界史研究ノート [標準編] (啓隆社)				

1 学習の到達目標

<p>社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を身に付ける。</p> <p>① 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連づけながら理解するとともに、諸資料から世界の歴史に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。</p> <p>② 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>③ 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。</p>
--

2 評価の観点・内容・方法、及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の内容	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連づけながら理解しているとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりしている。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとしている。
評価の方法	定期考査	定期考査	学習課題 (問題集, プリント) 授業観察など

②成績評価の方法

評価の内容：「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点を各100点満点計300点満点で算出し、それを3で割った点数(100点法)を評点とします。学年末に評定(5段階)にまとめます。

3 学習計画

※評価の観点：a（知識・技能），b（思考・判断・表現），c（主体的に学習に取り組む態度）

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と 到 達 目 標	評価の観点			時間数
			a	b	c	
4	ガイダンス	・予習復習の体験学習をする。			○	1
5	[第9章] 中華世界の変容とモンゴル帝国	・内陸アジア諸民族と周辺諸地域世界との関わりに触れ、東アジア北方の諸民族の動向、唐王朝滅亡後の東アジア世界の変容、およびモンゴル帝国の興亡とその影響について理解する。	○	○	○	12
	[第10章] インド洋海域世界の発展と東南アジア	・イスラームの影響を受けたインド・アフリカ東海岸地域の展開、及び10世紀から13世紀にかけての東南アジアの変容について触れ、南アジア・アフリカ・東南アジア各地域の変容と歴史的特質を理解する。	○	○	○	3
	[第11章] 大交易時代と世界の一体化	・アジア地域における交易ネットワークの形成過程とポルトガルのアジア進出、14世紀から17世紀にかけての東アジア世界の動向、及び「大交易時代」におけるヨーロッパ・アジア世界の変容に触れ、「世界の一体化」の歴史的特質を理解する。	○	○	○	13
	【1学期中間考査】		○	○	○	1
6	[第12章] ユーラシア諸帝国の繁栄	・16世紀から18世紀にかけてのアジア諸地域の動向に触れ、中央・西アジア、南アジア、東アジア各地域に成立した諸帝国の形成過程と歴史的特質を理解する。	○	○	○	8
	[第13章] 主権国家体制の形成と地球規模での交易の拡大	・16世紀から18世紀にかけてのヨーロッパ世界の動向に触れ、宗教改革の展開、主権国家の形成過程、重商主義に基づいたヨーロッパ諸国の対外進出、啓蒙専制国家の形成過程とそれらの歴史的特質、及び近世ヨーロッパの文化の特色について理解する。	○	○	○	13
	[第14章] 国民国家と近代社会の形成	・18世紀から19世紀にかけての欧米世界の動向に触れ、産業革命の展開、アメリカ独立革命と中南米諸国の独立、フランス革命の背景と展開、ウィーン体制の成立過程、自由主義・ナショナリズムの特徴、新たな国民国家の形成・発展過程、南北アメリカ大陸の変容の過程とそれらの歴史的特質、及び同時期の文化の特色について理解する。	○	○	○	16
7	[第15章] 世界市場の形成とアジ	・ヨーロッパ、アメリカ、アジア各地域における「産業	○	○	○	8

	ア諸国の変容	資本主義」の展開とアジア諸国の変容に触れ、19世紀における欧米とアジアの関係性、及び同時期の歴史的特質を理解する。	○	○	○	1
	【1学期期末考査】					
8	[第16章] アジア・アフリカ諸国の統治再編と世界分割の進行	・第2次産業革命の展開、ヨーロッパ諸国による世界分割の展開、及びアジア諸地域の変革と民族運動の動向に触れ、帝国主義・世界分割の歴史的特質、及び19～20世紀のアフリカ・アジア諸地域の変容について理解する。	○	○	○	15
9						
10	[第17章] 第一次世界大戦の展開と諸地域の変容	・第一次世界大戦とロシア革命の展開、ヴェルサイユ・ワシントン体制の形成過程、第一次世界大戦後のアメリカ合衆国の繁栄、及びアジア・アフリカ地域の民族運動の動向に触れ、第一次世界大戦の展開と諸地域の変容の歴史的特質について理解する。	○	○	○	12
11	[第18章] 国際協調体制の動揺と第二次世界大戦	・世界恐慌とファシズムの動向、ヴェルサイユ・ワシントン体制の動揺、第二次世界大戦の展開、及び大戦後の国際秩序の形成過程に触れ、第二次世界大戦の展開と諸地域の変容の歴史的特質について理解する。	○	○	○	14
	[第19章] 第二次世界大戦と戦後の東アジア	・第二次世界大戦後のアジア諸国の独立と脱植民地化、冷戦体制の影響に触れ、20世紀中期のアジア諸国の変容と歴史的特質について理解する。	○	○	○	8
	[第20章] 冷戦の世界化と国際制度	・冷戦体制の形成過程、第三世界の台頭、及び冷戦体制の動揺に触れ、1940年代後半から1960年代にかけての世界の歴史的特質について理解する。	○	○	○	8
12	[第21章] 冷戦の変容・終結と経済のグローバル化	・1970年代におけるアメリカ合衆国の覇権の動揺と冷戦体制への影響、アジア・ラテンアメリカ諸国の変容、冷戦の終結とその後の世界秩序の展開に触れ、20世紀後半の世界の歴史的特質について理解する。	○	○	○	8
	[第22章] 21世紀の地球的課題と人類社会	・グローバル化、地球規模の諸課題、及び秩序の変容に触れ、21世紀の世界の歴史的特質について理解する。	○	○	○	3
	【二学期期末考査】		○	○	○	1

※学習状況により、進度・内容を変更することがあります。

地理歴史 科 3 年		発展日本史		年間授業計画 (シラバス)		
科目名	発展日本史	対象	進学文系	コース	単位数	5 単位
教科書	『日本史探究 高校日本史』		出版社 山川出版社			
副教材	『日本史用語集 (A・B共用)』 (山川出版社)		『第10版詳説日本史図録』 (山川出版社)			
	『2023年度新課程 要点整理ゼミナール日本史』 (浜島書店)					

1 学習の到達目標

<p>① 我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界史と関連付けて総合的に考察する。</p> <p>② 我が国の伝統と文化の特色についての認識を深める。</p> <p>③ 歴史的思考力を培い国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。</p>
--

2 評価の観点・内容・方法及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の趣旨	歴史的資料を収集し、資料から必要な情報を読み取る技能や、課題解決に必要な知識を身に着けている。	歴史的資料の特性を踏まえ、読み取った情報から、その時代的・地域的特色を多面的・多角的に考察し、仮説などを表現できる。	我が国の歴史の学習に主体的に臨み、より深い学びを得るための工夫を積極的に行っている。
評価の方法	ノート提出 問題集提出	定期考査 課題プリント	定期考査 課題プリント

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめます。

評価の内容 「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」 1 : 1 : 1

3 学習計画

月	学習単元	主な学習内容と到達目標	評価の観点			時間数
			a	b	c	
4	ガイダンス (体験学習等) 第IV部 近代・現代 第9章 幕藩体制の成立と展開 3 幕政の安定 4 経済の発展 5 元禄文化 第10章 幕藩体制の動揺 1 幕政の改革と宝暦・天明期の文化	<ul style="list-style-type: none"> 予習復習の体験学習をする。日本史学習のモデルスタイル等の説明を理解する。 武断政治から文治政治へ転換したこと。財政改革が幕府の今後の課題になることなどを理解する。 江戸時代に発展した町人文化を学ぶ。 社会・経済の発展により政治・財政改革が盛んに行なわれるが、大塩の乱や天保の改革の失敗により幕府権力が衰退していく過程を学ぶ。 文学は当時も世相を表す鏡であった。優れた芸術作品は海外に影響を与えた。洋学は国内の多くの知識人に影響を与え、独自のものを生み出した。 	○	○	○	25
5	2 江戸幕府の衰退 3 化政文化 1 学期中間考査	<ul style="list-style-type: none"> 長州藩と薩摩藩の行動を対比させながら、尊攘運動を考察させる。また、尊攘派志士の背後に豪農豪商層がいたことを理解する。 五箇条の御誓文、政体書のもつ開明性と五榜の揭示の封建性の矛盾を検討することによって新政府 	○	○	○	25
	第IV部 近代・現代 第11章 近世から近代へ 1 開国とその影響		○	○	○	

6	2 幕府の滅亡と新政府の発足 第12章 近代国家の成立 1 明治維新と富国強兵 2 立憲国家の成立	の性格を理解する。 ・自由民権運動の思想的背景及びその階級的性格、意義を考察する。	○	○	○	
7	1 学期期末考査					
8	第13章 近代国家の展開と国際関係 1 大陸政策の展開	・日清戦争後、日本の対外膨張を支える国家主義が思想界の主流になったことを理解する。	○	○	○	65
9	到達度テスト対策					
10	2 第一次世界大戦と日本 3 ワシントン体制 第14章 近代の産業と生活 1 近代産業の発展 2 近代の文化 3 市民文化の変容と大衆文化	・日露戦争は帝国主義国間の対立を背景にして戦われたこと、及び日本国民の大多数は支配層の開戦強硬論に動かされていたことを説明する。日本資本主義の発展とともに社会問題が現れたことを理解する。 ・民衆勢力の台頭によって文化が少数の特権階級の独占物ではなくなり、いわゆる大衆文化が成立した点に留意する。	○	○	○	
11	第15章 恐慌と第二次世界大戦 1 恐慌の時代 2 軍部の台頭 3 第二次世界大戦	・普通選挙法が成立したが、無産階級の台頭を恐れる政党は治安維持法を制定して社会運動に弾圧を加えたことを理解する。 ・戦後恐慌・金融恐慌・世界恐慌と次々に恐慌に見まわれ、ついに深刻な昭和恐慌に突入し、日本は対外侵略の道を歩むことになることを理解する。 ・満州事変に始まる日本の大陸進出の過程を通じて、世界の中における日本の立場が孤立していったことを理解する。	○	○	○	
	第16章 現代の世界と日本 1 占領下の改革と主権の回復	・財閥解体と農地改革が日本の民主化にもつ政治的・経済的・社会的な意義を理解する。 ・朝鮮戦争に際して、特需を土台に日本経済の復興が進められ、同時に戦後初期における民主化に逆行するような動きが起きてきたことにも注目する。	○	○	○	10
	2 学期期末考査					
	2 55年体制と高度経済成長 3 現代の情勢	・経済の高度成長に伴って、国民生活の向上が見られた反面、経済成長のひずみがどのように現れ、どのような社会問題を生み出したか検討する。 ・我々国民は、国家の主権者として、日本の進路を自主的な立場と態度をもって決定すべき重大な責任を担っていることを理解する。	○	○	○	

※学習状況により、進度・内容を変更することがあります。

地理歴史 科 3 年		地理探究		年間授業計画 (シラバス)	
科目名	地理探究	対象	進学文系	コース	単位数 5 単位
教科書	新詳地理探究, 新詳高等地図		出版社 帝国書院		
副教材	新詳地理資料 COMPLETE 2022 (帝国書院), 新詳地理探究演習ノート (帝国書院)				

1 学習の到達目標

<p>① 社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を身に付ける。</p> <p>② 地理に関わる諸事象に関して、世界の空間的な諸事象の規則性、傾向性や、世界の諸地域の地域的特色や課題などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p> <p>③ 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、系統地理的、地誌的に、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>④ 地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする大切さについての自覚などを深める。</p>

2 評価の観点・内容・方法、及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の内容	地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解しているとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりしている。	地理に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。
評価の方法	定期考査 学力テスト 単元テスト 小テスト レポート 授業観察など	定期考査 学力テスト 単元テスト 小テスト レポート 授業観察など	学習課題 ワークシート レポート ノート 授業観察など

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめます。

評価の内容 知識・技能：思考・判断・表現：主体的に学習に取り組む態度 = 1：1：1

3 学習計画

※評価の観点：a（知識・技能），b（思考・判断・表現），c（主体的に学習に取り組む態度）

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と 到 達 目 標	評価の観点			時間数
			a	b	c	
4	ガイダンス	1年間の進め方 予習復習について				1
5	第2部 第2章 現代世界の諸地域 4 インド	インドの自然，産業，文化などを理解・考察する。	○	○		9
	5 西アジアと中央アジア	西アジアと中央アジアの自然，産業，文化などを理解・考察する。	○	○		9
	6 北アフリカと サハラ以南アフリカ	北アフリカとサハラ以南のアフリカの自然，産業，文化などを理解・考察する。	○	○		9
6	【1学期中間テスト】	EU諸国の自然，産業，文化などを理解・考察する。	○	○		12
7	7 EU諸国	ロシアの自然，産業，文化などを理解・考察する。	○	○		7
8	8 ロシア	ラテンアメリカの自然，産業，文化などを理解・考察する。	○	○		10
	10 ラテンアメリカ					
8	【1学期期末テスト】					
9	※基礎学力到達度テスト	※基礎学力到達度テストに向けての問題演習を行う。	○	○		15
10	※基礎学力到達度テスト					
11	問題演習	※諸地域の抱える課題について，系統地理的・地誌的の両面から考察していく。	○	○		30
	※諸地域の抱える課題について					
	【2学期期末テスト】	※諸地域の抱える課題について，系統地理的・地誌的の両面から考察していく。	○	○		9
	※諸地域の抱える課題について					

※学習状況により，進度・内容を変更することがあります。

公民		科 3 年		倫理		年間授業計画 (シラバス)	
科目名	倫理	対象	進学文系	コース		単位数	2 単位
教科書	高等学校新倫理新訂版				出版社	清水書院	
副教材	高等学校新倫理新訂版ワークノート (清水書店) ・最新図説倫理 (浜島書店)						

1 学習の到達目標

- ①人間としての在り方生き方についての見方・考え方を働かせる。
 ②現代の諸課題を追求したり解決に向けて構想したりする活動を行う。
 ③広い視野に立ち、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力を育成する。

2 評価の観点・内容・方法, 及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の内容	<ul style="list-style-type: none"> 古今東西の幅広い知的蓄積を通して、現代の諸課題を捉え、より深く思索するための手掛かりとなる概念や理論について理解している。 諸資料から、人間としての在り方生き方に関わる情報を調べまとめることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自立した人間として、他者と共によりよく生きる自己の生き方について、より深く思索することができる。 現代の倫理的諸課題を解決するために倫理に関する概念や理論などを活用して、理論的に思考し、説明したり対話したりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 人間としての在り方生き方に関わる事象や課題について主体的に追究したり、他者と共によりよく生きる自己を形成しようとしている。 多面的・多角的な考察やより深い思索を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚を深めている。
評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> 小テスト 定期テスト ワークシート レポート ノート提出 グループワーク 観察など 	<ul style="list-style-type: none"> 小テスト 定期テスト ワークシート レポート ノート提出 グループワーク 観察など 	<ul style="list-style-type: none"> 小テスト 定期テスト ワークシート レポート, 課題提出 ノート提出 グループワーク 観察など

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめます。

評価の内容 「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」 1 : 1 : 1

3 学習計画

※評価の観点：a（知識・技能），b（思考・判断・表現），c（主体的に学習に取り組む態度）

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と 到 達 目 標	評価の観点			時間数
			a	b	c	
4	ガイダンス 第4編 第1章 日本の風土と精神文化	予習復習と演習の体験学習をする。		○	○	1
	第1節 日本人の人間観・自然観・宗教観 1 風土と日本人の生活 2 日本における神の観念 3 神と仏の出会い	・日本人の人間観、自然観、宗教観の特質を、日本人の心情や考え方と風土との関わり、また日本的な美意識や自然との関わりに着目して、日本人としての自己意識と結び付けて、理解する。	○	○	○	22
5	第2節 日本人の仏教受容 1 古代仏教の思想 2 鎌倉仏教の思想 (1学期中間考査)	・外来思想である仏教を、日本独自の受容やその思想の形成と発展を通して、それらが日本人の思想形成にどのように影響を及ぼしたかを理解する。 ・外来思想である儒教を、江戸時代における儒学諸派の形成を通して、それらが日本人の思想形成にどのように影響を及ぼしたかを理解する。				
6	第3節 近世社会の思想 1 儒教の伝来と朱子学 2 陽明学 3 古学	・古代の精神の究明に努めた国学が、古代の日本人の心情と考え方をどのように捉えたかを理解する。 ・近世庶民の思想や幕末の思想が、それらが日本人の思想形成にどのように影響を及ぼしたかを理解する。	○	○		
7	4 国学と日本文化 5 近世庶民の思想 (1学期期末考査)					
8		(公共分野も含めて、夏休みの受験対策学習に向けての演習も組み込む)				
9	6 近代的国家への道 第2章 日本の近代化と人々の生き方 第1節 西洋近代精神の摂取	・西洋文化を摂取し、新しい文化や思想を形成した思想家たちを通して、現代を生きる日本人の思想形成にどのような影響を与えているかを理解する。	○	○		
	1 啓蒙思想家の活動 2 国家と個人の衝突					
	第2節 近代的個人の自覚 1 近代的自我の成立と個人主義	・日本人の人間観、自然観、宗教観の特質を、民俗学の知見を手掛かりに、日本人としての自己意識と結び付けて、理解する。	○	○		
10	2 社会改革の思想		○	○		

11	<p>第3節 主体的な生き方と価値観の模索</p> <p>1 近代日本の哲学者</p> <p>2 近代日本の思想傾向への反省</p> <p>3 現代日本と私たちの課題</p> <p>第5編 現代における諸課題の探究</p> <p>第1章 自然や科学技術をめぐる諸課題</p> <p>1 環境と倫理</p> <p>2 生命と倫理</p> <p>3 科学技術の発展とその課題</p> <p>第2章 社会や文化にかかわる諸課題</p> <p>1 文化や宗教の多様性と倫理</p> <p>2 国際平和と人類の福祉</p> <p>(2学期期末考査)</p>	<p>先哲を含む他者との対話を通して、生命、自然、科学技術などと人間との関わりについて倫理的課題を見だし、その解決に向けて倫理に関する概念や理論などを手掛かりとして多面的・多角的に考察し、公正に判断して構想し、自分の考えを説明、表現する。</p> <p>先哲を含む他者との対話を通して、福祉、文化と宗教、平和などについて倫理的課題を見だし、その解決に向けて倫理に関する概念や理論などを手掛かりとして多面的・多角的に考察し、公正に判断して構想し、自分の考えを説明、表現する。</p> <p>『完全MASTER 倫理問題集』や「公共」科目の倫理分野の演習教材等を活用しながら大学入試共通テストに向けた全範囲の演習をおこなう。</p>	○	○		10
----	--	--	---	---	--	----

※学習状況により、進捗・内容を変更することがあります。

公民科 3年 発展政治経済 年間授業計画 (シラバス)						
科目名	発展政治経済	対象	進学文系	コース	単位数	3 単位
教科書	『高等学校 政治経済』 清水書院					出版社 清水書院
副教材	『高等学校 政治経済 ワークノート』 (清水書院) 『政治・経済資料 2023』 (とうほう) 『政経データバンク - 一問一答 -』 (清水書院) 『完全 MASTER 政経+公共 問題集 大学入学共通テスト』 (清水書院)					

1 学習の到達目標

① 広い視野にこころ、国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を身に付ける。
② 現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論を理解する。
③ 資料から社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べ、まとめる技能を身に付ける。
④ 現実社会の複雑な課題を把握し、構想する力、公正に判断する力、合意形成や社会参画に向かう力な、現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を身に付ける。
⑤ 公民として自国を愛し、平和と繁栄を図ることや、我が国及び国際社会において国家及び社会の形成により積極的な役割を果たそうとする自覚を深める。

①評価の観点・内容・方法

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の内容	現代日本における政治・経済の諸課題およびグローバル化する国際社会の諸課題について、基礎的基本的な知識を身につけ、理解を深めている。また諸資料から課題の解決に向けて考察、構想する際に必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取る技能を身に付けている。	現代日本における政治・経済の諸課題およびグローバル化する国際社会の諸課題について多面的・多角的に考察、構想し、表現できている。	よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。また、知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取り組みを行おうとしている。
評価の方法	定期考査 学力テスト 小テスト レポート 授業観察など	定期考査 学力テスト レポート 授業観察など	学習課題 ワークシート レポート ノート 授業観察など

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめます。

評価の内容 「知識・技能：思考」「判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」 = 1 : 1 : 1

3 学習計画

※評価の観点：a（知識・技能）、b（思考・判断・表現）、c（主体的に学習に取り組む態度）

月	学 習 単 元	主な学習内容と到達目標	評価の観点			時間数
			a	b	c	
4	ガイダンス 第1編 現代日本の政治・経済 第2章 現代政治のしくみと日本 8 企業の活動と役割 9 労働問題と労働環境の変化 10 社会保障制度の充実 11 農業と食料問題	<ul style="list-style-type: none"> ・企業は、提供された生産要素を結合して生産活動を行うことを理解する。 ・日本の労使関係の特色や、勤労の権利と義務、労働基本権の保障、労働条件の改善、労働組合の役割について理解する。 ・中小企業の特徴としてベンチャー企業のように経済的に大きな役割を果たしているものがある一方で、下請けとして大企業との間に是正すべき格差社会が存在しているということを理解する。 ・医療や年金といった社会保障費の財政負担が大きな問題となっていることを日本の社会保障制度の歩みや特色とともに理解する。 ・日本の食料自給率が他の先進国とくらべて低く、日本の農業の体質強化が課題とされていることを理解する。 ・市場経済においては市場の失敗として環境破壊があることを外部不経済の視点から理解する。 	○	○	○	1 4
5	第2編 現代の国際政治・経済 第1章 現代の国際社会と政治 1 国際社会の成立と国際法 2 国際連合と国際協力 3 国際社会の変遷と動向 4 国際紛争と軍備管理 テーマ 国際社会と日本外交	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェストファリア・システムを理解する。 ・国際法の基本的なしくみについて理解する。 ・国際法に関しては統一的な立法機関はなく、国際司法裁判所にも強制力が十分には機能しないことを理解する。 ・国際連合をはじめとした国際機構の意義や役割を理解する。あわせて、NGOや多国籍企業が国際政治に影響を与えていることも理解する。 ・国際政治の動向として、冷戦後の動向について理解する。 ・日本の安全保障と防衛について理解を深める。 	○	○	○	10
	<1学期中間考査>		○	○	○	1
	第2章 現代の国際社会と経済 1 国際経済のしくみ 2 国際収支と為替 3 国際協調と国際経	<ul style="list-style-type: none"> ・比較優位の考え方について理解し、自由貿易論と保護貿易論、現代の貿易問題と関連させて理解する。 ・対外経済取引に伴い通貨間の売買が必要になることを理解する。その際、自国通貨と外国通貨の需給関 	○	○	○	15

6	<p>済機関の役割</p> <p>4 グローバル化と国際経済</p> <p>テーマ 国際経済における日本の役割</p>	<p>係から為替レートが決まる変動相場制が採用されており、財やサービス、資本の出入りや物価水準、金利差など様々な要因が相場に影響を与えていることを理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際収支統計の基本的な構成と、日本の対外経済取引の現状について理解する。 ・世界貿易機関や国際通貨基金などの国際経済機関が果たす役割や課題について理解する。 ・持続可能な社会を形成するための政策について理解する。 ・新興工業国経済について特徴課題について理解する。 ・国際経済の安定のために日本が果たすべき役割にはどのようなものがあるのかを考察する。 	○	○	○	
7	<p>(一学期期末考査)</p> <p>第3章 国際社会の諸課題</p>		○	○	○	1
8	<p>1 グローバル化する世界のリスクとはなにか？</p> <p>2 難民問題に解決策はあるか？</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今日の国際社会の課題は、従来の政治や経済の枠組みをこえたものが多く、しかも複雑化していることを理解した上で、リスクある社会について探究する。 ・難民問題の現状を理解し、難民問題発生の原因を考え、原因を除去するために必要な政策を提言することを通して難民問題の解決策を探究する。 	○	○	○	
9	<p>3 国際経済格差の是正に国際社会はどう取り組むか？</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・国際経済格差の是正について、先進国や国際機関による経済援助を中心とする考え方と発展途上国の自助努力を中心とする考え方を対照させて、発展途上国の経済的な自立と持続可能な発展と先進国の協力のあり方について探究する。 	○	○	○	
10	<p>4 技術革新は世界をどう変えたか？</p> <p>5 地球環境を守る資源・エネルギー開発とは？</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・イノベーションがこれまで社会をどのように変化させてきたかを理解し、現在直面している世界の変化をどのようなイノベーションがどのような方向に向かわせるかを考え、これからの私たちの生き方やあり方を探究する。 ・気候変動に対して私たちが取り組んできた活動を理解し、再生エネルギーやクリーンエネルギーの特徴からSDGsにかなう資源・エネルギー開発について探究する。 	○	○	○	1
11	<p>問題演習, グループ学習</p> <p>(二学期期末考査)</p>	<p>現代の諸課題について、グループワーク、レポート作成によって理解を深め、その解決方法について考察する。また、問題演習を通して、知識の定着を図る。</p>	○	○	○	20

※学習状況により、進度・内容を変更することがあります。

地理歴史 科 3 年		発展世界史		年間授業計画 (シラバス)	
科目名	発展世界史	対象	特進文系	コース	単位数 4 単位
教科書	世界史探究 詳説世界史		出版社 山川出版社		
副教材	最新世界史図説タペストリー [二十訂版] (帝国書院)		世界史B用語集 (山川出版社)		
	世界史探究 詳説世界史 10 分間テスト (山川出版社)		新世界史研究ノート [応用編] (啓隆社)		
	短期攻略 大学入学共通テスト世界史B (駿台文庫)				

1 学習の到達目標

<p>社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を身に付ける。</p> <p>① 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連づけながら理解するとともに、諸資料から世界の歴史に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。</p> <p>② 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>③ 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。</p>
--

2 評価の観点・内容・方法、及び成績評価の方法

① 評価の観点・内容・方法

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の内容	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連づけながら理解しているとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりしている。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとしている。
評価の方法	定期考査	定期考査	学習課題 (問題集、プリント) 授業観察など

② 成績評価の方法

評価の内容：「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点を各100点満点計300点満点で算出し、それを3で割った点数(100点法)を評点とします。学年末に評定(5段階)にまとめます。

3 学習計画

※評価の観点：a（知識・技能），b（思考・判断・表現），c（主体的に学習に取り組む態度）

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と 到 達 目 標	評価の観点			時間数
			a	b	c	
4	ガイダンス [第11章] 近世ヨーロッパ世界の 動向	・予習復習の体験学習をする。			○	1
5	[第12章] 産業革命と環太平洋革 命 【1学期中間考査】	・15世紀から18世紀までのヨーロッパ世界の動向に 触れ、ルネサンスの歴史的特質、ヨーロッパ各地にお ける主権国家体制の形成過程とその歴史的特質、及び 17～18世紀の文化の特色について理解する。	○	○	○	15
		・産業革命の展開、アメリカ独立革命およびフランス 革命の背景と展開、中南米諸国の独立の展開に触れ、 太平洋両岸地域の統合と変容の過程、及びその歴史 的特質について理解する。	○	○	○	11
6	[第13章] イギリスの優位と欧米 国民国家の形成	・19世紀の欧米世界の動向に触れ、ウィーン体制の成 立過程、自由主義・ナショナリズムの特徴、新国民 国家の形成・発展過程、南北アメリカ大陸の変容の過 程とそれらの歴史的特質、及び19世紀の文化の特色に ついて理解する。	○	○	○	1
		・19世紀の欧米世界の動向に触れ、ウィーン体制の成 立過程、自由主義・ナショナリズムの特徴、新国民 国家の形成・発展過程、南北アメリカ大陸の変容の過 程とそれらの歴史的特質、及び19世紀の文化の特色に ついて理解する。	○	○	○	12
7	[第14章] アジア諸地域の動揺 【1学期期末考査】	・19世紀のアジア諸地域の動向に触れ、西アジア地域 の変容の過程、南アジア・東南アジアの植民地化の過 程と世界経済との関係性、東アジア地域の変容と諸改 革の過程、及びそれらの歴史的特質について理解する。	○	○	○	10
		・19世紀のアジア諸地域の動向に触れ、西アジア地域 の変容の過程、南アジア・東南アジアの植民地化の過 程と世界経済との関係性、東アジア地域の変容と諸改 革の過程、及びそれらの歴史的特質について理解する。	○	○	○	10
8	[第15章] 帝国主義とアジアの民 族運動	・第2次産業革命の展開、ヨーロッパ諸国による世界 分割の展開、及びアジア諸地域の変革と民族運動の動 向に触れ、帝国主義・世界分割の歴史的特質、及び19 ～20世紀のアフリカ・アジア諸地域の変容について理 解する。	○	○	○	12
9	[第16章] 第一次世界大戦と世界 の変容 【2学期中間考査】	・第一次世界大戦とロシア革命の展開、ヴェルサイユ・ ワシントン体制の形成過程、第一次世界大戦後のアメ リカ合衆国の繁栄、及びアジア・アフリカ地域の民族 運動の動向に触れ、第一次世界大戦の展開と諸地域の 変容の歴史的特質について理解する。	○	○	○	15
		・第一次世界大戦とロシア革命の展開、ヴェルサイユ・ ワシントン体制の形成過程、第一次世界大戦後のアメ リカ合衆国の繁栄、及びアジア・アフリカ地域の民族 運動の動向に触れ、第一次世界大戦の展開と諸地域の 変容の歴史的特質について理解する。	○	○	○	1
10	[第17章] 第二次世界大戦と新し い国際秩序の形成	・世界恐慌とファシズムの動向、ヴェルサイユ・ワシ ントン体制の動揺、第二次世界大戦の展開、及び大戦 後の国際秩序の形成とアジア諸国の独立の過程に触 れ、第二次世界大戦の展開と諸地域の変容の歴史的特	○	○	○	13

		質について理解する。				
	[第18章] 冷戦と第三世界の台頭	・冷戦体制の形成過程, 第三世界の台頭, 及び冷戦体制の動揺に触れ, 1940年代後半から1970年代にかけての世界の歴史的特質について理解する。	○	○	○	8
11	[第19章] 冷戦の終結と今日の世界	・産業構造の変容, 冷戦の終結, 及び今日の世界における秩序・経済・国際化の展開と文化の特色に触れ, 1970年代以降の世界の歴史的特質, 及び地球規模の課題について理解する。	○	○	○	8
	【2学期期末考査】		○	○	○	1
12	[共通テスト対策]	・共通テスト試験過去問題集・実践問題集を活用し, 共通テストに向けての学力を養う。	○	○	○	
	[個別学力試験対策]	・二次試験受験者を対象に, 学力を養う。	○	○	○	
1						
2						

※学習状況により, 進度・内容を変更することがあります。

地理歴史 科 3 年 発展日本史 年間授業計画 (シラバス)						
科目名	発展日本史	対象	特進文系	コース	単位数	4 単位
教科書	『詳説日本史 日本史探究』		出版社 山川出版社			
副教材	『日本史用語集(A・B共用)』 (山川出版社)		『第10版詳説日本史図録』 (山川出版社)			
	『2023新課程版ステップアップ日本史』 (啓隆社)					

1 学習の到達目標

- ① 我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界史と関連付けて総合的に考察する。
- ② 我が国の伝統と文化の特色についての認識を深める。
- ③ 歴史的思考力を培い国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

2 評価の観点・内容・方法及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の趣旨	歴史的資料を収集し、資料から必要な情報を読み取る技能や、課題解決に必要な知識を身に着けている。	歴史的資料の特性を踏まえ、読み取った情報から、その時代的・地域的特色を多面的・多角的に考察し、仮説などを表現できる。	我が国の歴史の学習に主体的に臨み、より深い学びを得るための工夫を積極的に行っている。
評価の方法	ノート提出 問題集提出	定期考査 課題プリント	定期考査 課題プリント

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめます。

評価の内容 「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」 1 : 1 : 1

3 学習計画

月	学習単元	主な学習内容と到達目標	評価の観点			時間数
			a	b	c	
4	ガイダンス (体験学習等)	<ul style="list-style-type: none"> ・予習復習の体験学習をする。日本史学習のモデルスタイル等の説明を理解する。 ・武断政治から文治政治へ転換したこと。財政改革が幕府の今後の課題になることなどを理解する。 ・江戸時代に発展した町人文化を学ぶ。 			○	20
	3 幕政の安定					
	4 経済の発展		○	○	○	
	5 元禄文化		○	○	○	
5	第10章幕藩体制の動揺	<ul style="list-style-type: none"> ・社会・経済の発展により政治・財政改革が盛んに行なわれるが、大塩の乱や天保の改革の失敗により幕府権力が衰退していく過程を学ぶ。 ・文学は当時も世相を表す鏡であった。優れた芸術作品は海外に影響を与えた。洋学は国内の多くの知識人に影響を与え、独自のものを生み出した。 				20
	1 幕政の改革		○	○	○	
	2 宝暦・天明期の文化		○	○	○	
	3 幕府の衰退と近代への道		○	○	○	
6	4 化政文化	<ul style="list-style-type: none"> ・長州藩と薩摩藩の行動を対比させながら、尊攘運動を考察させる。また、尊攘派志士の背後に豪 				20
	1 開国と幕末の動乱		○	○	○	
	2 幕府の滅亡と新政府の		○	○	○	

7	発足 第12章 近代国家の成立 1 明治維新と富国強兵 2 立憲国家の成立	農豪商層がいたことを理解する。 ・五箇条の御誓文、政体書のもつ開明性と五榜の掲示の封建性の矛盾を検討することによって新政府の性格を理解する。 ・自由民権運動の思想的背景及びその階級的性格、意義を考察する。	○	○	○	
8						
9	1 学期期末考査		○	○	○	
10	第13章 近代国家の展開 1 日清・日露戦争と国際関係 2 第一次世界大戦と日本 3 ワシントン体制 第14章 近代の産業と生活 1 近代産業の発展 2 近代文化の発達 3 市民文化の変容と大衆文化	・日清戦争後、日本の対外膨張を支える国家主義が思想界の主流になったことを理解する。 ・日露戦争は帝国主義国間の対立を背景にして戦われたこと、及び日本国民の大多数は支配層の開戦強硬論に動かされていたことを説明する。日本資本主義の発展とともに社会問題が現れたことを理解する。 ・政党・ジャーナリストは民衆の政治的成長を背景に護憲運動を起こし、閥族支配を動揺させたことを理解する。 ・民衆勢力の台頭によって文化が少数の特権階級の独占物ではなくなり、いわゆる大衆文化が成立した点に留意する。	○	○	○	20
	2 学期中間考査					
11	第15章 恐慌と第二次世界大戦 1 恐慌の時代 2 軍部の台頭 3 第二次世界大戦 第16章 占領下の日本 1 占領と改革 2 冷戦の開始と講和 第17章 高度成長の時代 1 55年体制 2 経済復興から高度経済成長へ 第18章 激動する世界と日本 1 経済大国への道 2 冷戦の終結と日本社会の変容	・戦後恐慌・金融恐慌・世界恐慌と次々に恐慌に見まわれ、ついに深刻な昭和恐慌に突入し、日本は対外侵略の道を歩むことになることを理解する。 ・満州事変に始まる日本の大陸進出の過程を通じて、世界の中における日本の立場が孤立していったことを理解する。 ・財閥解体と農地改革が日本の民主化にもつ政治的・経済的・社会的な意義を理解する。 ・朝鮮戦争に際して、特需を土台に日本経済の復興が進められ、同時に戦後初期における民主化に逆行するような動きが起きてきたことにも注目する。 ・経済の高度成長に伴って、国民生活の向上が見られた反面、経済成長のひずみがどのように現れ、どのような社会問題を生み出したか検討する。	○	○	○	20
	2 学期期末考査					

※学習状況により、進度・内容を変更することがあります。

地理歴史 科 3 年		発展地理		年間授業計画 (シラバス)	
科目名	地理探究	対象	特進理系	コース	単位数 3 単位
教科書	新詳地理探究, 新詳高等地図			出版社	帝国書院
副教材	新編地理資料 2022 (とうほう), '23 新地理の研究 (啓隆社), 地理統計要覧 2022 (二宮書店) ウィニングコンパス地理 2024 (とうほう)				

1 学習の到達目標

<p>① 社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を身に付ける。</p> <p>② 地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p> <p>③ 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>④ 地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについての自覚などを深める。</p>

2 評価の観点・内容・方法、及び成績評価の方法

① 評価の観点・内容・方法

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の内容	地図や地理情報システムなどの読み取りを通して、地球的な視野から地理的事象の空間的な規則性、傾向性や関連する課題の発生要因について理解することで、現代世界の諸事象の地理的認識を深めている。	地理的事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりすることができる。	知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取り組みを行おうとしている。また、粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている。
評価の方法	定期考査 学力テスト 単元テスト 小テスト レポート 授業観察など	定期考査 学力テスト 単元テスト 小テスト レポート 授業観察など	学習課題 ワークシート レポート ノート 授業観察など

② 成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめます。

評価の内容 知識・技能：思考・判断・表現：主体的に学習に取り組む態度 = 1：1：1

3 学習計画

※評価の観点：a（知識・技能），b（思考・判断・表現），c（主体的に学習に取り組む態度）

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と 到 達 目 標	評価の観点			時間数
			a	b	c	
4	ガイダンス	1年間の進め方 予習復習について				1
5	第2部 第2章 現代世界の諸地域					
	5 西アジアと中央アジア	西アジアと中央アジアの自然，産業，文化などを理解・考察する。	○	○	○	5
	6 北アフリカと サハラ以南アフリカ	北アフリカとサハラ以南のアフリカの自然，産業，文化などを理解・考察する。	○	○	○	5
6	7 EU諸国	EU諸国の自然，産業，文化などを理解・考察する。	○	○	○	5
	【1学期中間テスト】					
7	8 ロシア	ロシアの自然，産業，文化などを理解・考察する。	○	○	○	3
	10 ラテンアメリカ	ラテンアメリカの自然，産業，文化などを理解・考察する。	○	○	○	5
7	地形図，地理院地図	地形図，地理院地図について理解・考察する	○	○	○	7
	【1学期期末テスト】					
8	9 大学入学共通テスト対策	大学入学共通テストに向けて，問題演習を行う	○	○	○	15
	【2学期中間テスト】					
10	11 大学入学共通テスト対策	大学入学共通テストに向けて，問題演習を行う	○	○	○	20
	【2学期期末テスト】					

※学習状況により，進度・内容を変更することがあります。

公民		科 3 年		倫理		年間授業計画 (シラバス)	
科目名	倫理	対象	特進文系	コース	単位数	1 単位	
教科書	高等学校新倫理新訂版			出版社	清水書院		
副教材	高等学校新倫理新訂版ワークノート・最新図説倫理・完全マスター倫理問題集 他						

1 学習の到達目標

- ①人間としての在り方生き方についての見方・考え方を働かせる。
 ②現代の諸課題を追求したり解決に向けて構想したりする活動を行う。
 ③広い視野に立ち、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力を身に付ける。

2 評価の観点・内容・方法, 及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の内容	<ul style="list-style-type: none"> 古今東西の幅広い知的蓄積を通して、現代の諸課題を捉え、より深く思索するための手掛かりとなる概念や理論について理解している。 諸資料から、人間としての在り方生き方に関する情報を調べまとめることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自立した人間として、他者と共によりよく生きる自己の生き方について、より深く思索することができる。 現代の倫理的諸課題を解決するために倫理に関する概念や理論などを活用して、理論的に思考し、説明したり対話したりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 人間としての在り方生き方に関する事象や課題について主体的に追究したり、他者と共によりよく生きる自己を形成しようとしている。 多面的・多角的な考察やより深い思索を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚を深めている。
評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> 小テスト 定期テスト ワークシート レポート ノート提出 グループワーク 観察など 	<ul style="list-style-type: none"> 小テスト 定期テスト ワークシート レポート ノート提出 グループワーク 観察など 	<ul style="list-style-type: none"> 小テスト 定期テスト ワークシート レポート, 課題提出 ノート提出 グループワーク 観察など

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめます。

評価の内容 「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」 1 : 1 : 1

3 学習計画

※評価の観点：a（知識・技能），b（思考・判断・表現），c（主体的に学習に取り組む態度）

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と 到 達 目 標	評 価 の 観 点			時 間 数
			a	b	c	
4	ガイダンス 第4編 第1章 日本の風土と精神文化 第1節 日本人の人間観・自然観・宗教観 1 風土と日本人の生活 2 日本における神の観念 3 神と仏の出会い	予習復習と演習の体験学習をする。		○	○	1
5	第2節 日本人の仏教受容 1 古代仏教の思想 2 鎌倉仏教の思想 (1学期中間考査) 第3節 近世社会の思想	・日本人の人間観、自然観、宗教観の特質を、日本人の心情や考え方と風土との関わり、また日本的な美意識や自然との関わりに着目して、日本人としての自己意識と結び付けて、理解する。 ・外来思想である仏教を、日本独自の受容やその思想の形成と発展を通して、それらが日本人の思想形成にどのように影響を及ぼしたかを理解する。	○	○	○	22
6	1 儒教の伝来と朱子学 2 陽明学 3 古学	・外来思想である儒教を、江戸時代における儒学諸派の形成を通して、それらが日本人の思想形成にどのように影響を及ぼしたかを理解する。	○	○		
7	4 国学と日本文化 5 近世庶民の思想 (1学期期末考査)	・古代の精神の究明に努めた国学が、古代の日本人の心情と考え方をどのように捉えたかを理解する。 ・近世庶民の思想や幕末の思想が、それらが日本人の思想形成にどのように影響を及ぼしたかを理解する。	○	○		
8	6 近代的国家への道	(公共分野も含めて、夏休みの受験対策学習に向けての演習も組み込む)				
9	第2章日本の近代化と人々の生き方 第1節 西洋近代精神の摂取 1 啓蒙思想家の活動 2 国家と個人の衝突 第2節 近代的個人の自覚	・西洋文化を摂取し、新しい文化や思想を形成した思想家たちを通して、現代を生きる日本人の思想形成にどのような影響を与えているかを理解する。 ・日本人の人間観、自然観、宗教観の特質を、民俗学の知見を手掛かりに、日本人としての自己意識と結び付けて、理解する。				

10	<p>1 近代的自我の成立と個人主義</p> <p>2 社会改革の思想</p> <p>第3節 主体的な生き方と価値観の模索</p> <p>1 近代日本の哲学者</p> <p>2 近代日本の思想傾向への反省</p> <p>3 現代日本と私たちの課題 (2学期中間考査)</p>		○	○		10
11	<p>第5編 現代における諸課題の探究</p> <p>第1章 自然や科学技術をめぐる諸課題</p> <p>1 環境と倫理</p> <p>2 生命と倫理</p> <p>3 科学技術の発展とその課題</p> <p>第2章 社会や文化にかかわる諸課題</p> <p>1 文化や宗教の多様性と倫理</p> <p>2 国際平和と人類の福祉</p> <p>(2学期期末考査)</p>	<p>先哲を含む他者との対話を通して、生命、自然、科学技術などと人間との関わりについて倫理的課題を見だし、その解決に向けて倫理に関する概念や理論などを手掛かりとして多面的・多角的に考察し、公正に判断して構想し、自分の考えを説明、表現させる。</p> <p>先哲を含む他者との対話を通して、福祉、文化と宗教、平和などについて倫理的課題を見だし、その解決に向けて倫理に関する概念や理論などを手掛かりとして多面的・多角的に考察し、公正に判断して構想し、自分の考えを説明、表現させる。</p> <p>『完全MASTER 倫理問題集』や「公共」科目の倫理分野の演習教材等を活用しながら大学入試共通テストに向けた全範囲の演習をおこなう。</p>			○ ○	

※学習状況により、進度・内容を変更することがあります。

普通科 3年		政治経済		年間授業計画 (シラバス)	
科目名	政治経済	対象	特進文系	コース	単位数 3 単位
教科書	『高等学校 政治経済』		出版社 清水書院		
副教材	『高等学校 政治経済 ワークノート』 (清水書院) 『政治・経済資料 2022』 (とうほう) 『完全 MASTER 政経+公共 問題集 大学入学共通テスト』 (清水書院)				

1 学習の到達目標

① 広い視野にここ、国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成する。
② 現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論を理解する。
③ 資料から社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べ、まとめる技能を身に付ける。
④ 現実社会の複雑な課題を把握し、構想する力、公正に判断する力、合意形成や社会参画に向かう力な、現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養う。
⑤ 公民として自国を愛し、平和と繁栄を図ることや、我が国及び国際社会において国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとする自覚を深めさせる。

2 評価の観点・内容・方法、及び成績評価の方法

① 評価の観点・内容・方法

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の内容	現代日本における政治・経済の諸課題およびグローバル化する国際社会の諸課題について、基礎的基本的な知識を身につけ、理解を深めている。また諸資料から課題の解決に向けて考察、構想する際に必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取る技能を身に付けている。	現代日本における政治・経済の諸課題およびグローバル化する国際社会の諸課題について多面的・多角的に考察、構想し、表現できている。	よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。また、知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取り組みを行おうとしている。
評価の方法	定期考査 学力テスト 小テスト レポート 授業観察など	定期考査 学力テスト レポート 授業観察など	学習課題 ワークシート レポート ノート 授業観察など

② 成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめます。

評価の内容 「知識・技能：思考」「判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」 = 1 : 1 : 1

3 学習計画

※評価の観点：a（知識・技能），b（思考・判断・表現），c（主体的に学習に取り組む態度）

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と 到 達 目 標	評価の観点			時間数
			a	b	c	
4	ガイダンス	・年間進捗を確認し、体験学習を通じて学習方法を学ぶ。	○		○	1
	第2章 現代の経済のしくみと日本					
	1 経済活動と経済主体	・市場経済や計画経済について理解する。 ・経済主体について理解し、これら経済主体間の相互関係が国民経済を構成していることを理解する。	○	○	○	2
	2 市場経済の機能と限界	・市場の競争性が維持されている場合でも公共財の提供がされにくいことや市場の失敗があることを理解する。 ・情報の非対称性の観点から家計・企業・政府間の情報格差について理解する。	○	○	○	2
5	3 国民経済と景気変動	・インフレ、デフレについて理解する。	○	○	○	2
	4 物価とその変動	・経済成長と景気変動を図る様々な指標の特色を理解する。	○	○	○	3
	5 金融のしくみとはたらき	・金融とは経済主体間の資金の融通であることを理解する。 ・資金の需給は金融市場における金利の変化や株式市場と債券市場の動向によって調節されることを理解する。 ・金融市場における金利の動向が消費や貯蓄、投資行動に影響したり物価や株価、景気の変動に大きな役割を果たしていることを理解する。 ・金融業務の自由化や金利の自由化に伴う金融に関する経済環境の変化による国民経済や家計や企業に向けての影響について理解する。	○	○	○	2
	6 財政のしくみと働き (一学期中間考査)	・有効需要政策の意味と役割、金融に関する技術変革について理解し、これからの社会に及ぼす影響を考える。 ・財政を国家財政と地方財政の双方から把握し、両者の役割分担や連携の在り方について考え、望ましい財政の在り方について考える。	○	○	○	1
	7 日本経済のあゆみ		○	○	○	3
			○	○	○	2
6	8 企業の活動と役割	・復興期と高度経済成長期の日本経済の特徴、石油危機とバブル経済期の日本経済の特徴について理解する。	○	○	○	2
	9 労働問題と労働環境の変化	・バブル崩壊と失われた20年の日本経済の特徴について理解し、現在の日本経済の課題を考える。 ・企業は、提供された生産要素を結合して生産活動を行うことを理解する。 ・日本の労使関係の特色や、勤労の権利と義務、労働基本権の保障、労働条件の改善、労働組合の役	○	○	○	1
			○	○	○	2

	10 社会保障制度の充実 11 農業と食糧問題	割について理解する。 ・中小企業にはベンチャー企業のように経済的に大きな役割を果たしているものがある一方で、下請けとして大企業との間には是正すべき格差社会が存在しているということを理解する。	○	○	○	2
	第2編 現代の国際政治・経済	・医療や年金といった社会保障費の財政負担が大きな問題となっていることを日本の社会保障制度の歩みや特色とともに理解する。	○	○		1
	第1章 現代の国際社会と政治	・農業問題としては、日本の食料自給率が他の先進国とくらべて低く、日本の農業の体質強化が課題とされていることを理解する。	○	○	○	2
7	1 国際社会の成立と国際法					
	2 国際連合と国際協力		○	○	○	2
	3 国際社会の変遷と動向	・ウェストファリア・システムを理解する。 ・国際法の基本的なしくみについて理解する。 ・国際法に関しては統一的な立法機関はなく、国際司法裁判所にも強制力が十分には機能しないことを理解する。	○			2
8	4 国際紛争と軍備管理	・国際連合をはじめとした国際機構の意義や役割を理解する。あわせて、NGOや多国籍企業が国際政治に影響を与えていることも理解する。 ・国際政治の動向として、冷戦後の動向について理解する。	○	○	○	2
	(1学期期末考査)	・日本の安全保障と防衛について理解を深める。	○	○	○	1
9	テーマ 国際社会と日本外交		○	○		2
	第2章 現代の国際社会と経済	・国家間の対立を解消するためには調整し協調することが必要であることを理解する。	○	○	○	20
	1 国際経済のしくみ	・比較優位の考え方について理解し、自由貿易論と保護貿易論、現代の貿易問題と関連させて理解する。	○	○		
	2 国際収支と為替	・対外経済取引に伴い通貨間の売買が必要になることを理解する。その際、自国通貨と外国通貨の需給関係から為替レートが決まる変動相場制が採用されており、財やサービス、資本の出入りや物価水準、金利差など様々な要因が相場に影響を与えていることを理解する。	○	○	○	
10	3 国際協調と国際経済機関の役割					
	(二学期中間考査)					
	4 グローバル化と国際経済	・国際収支統計の基本的な構成と、日本の対外経済取引の現状について理解する。 ・世界貿易機関や国際通貨基金などの国際経済機関が果たす役割や課題について理解する。 ・持続可能な社会を形成するための政策について理解する。 ・新興工業国経済について特徴課題について理解する。		○	○	
11						

12	テーマ 国際経済における日本の役割	国際経済の安定のために日本が果たすべき役割にはどのようなものがあるのかを考察する。		○	○	1
	グループ学習, 問題演習 (二学期期末考査)	現代の諸課題について, グループワーク, レポート作成によって理解を深め, その解決方法について考察する。また, 問題演習を通して, 知識の定着を図る。		○	○	1

※学習状況により, 進捗・内容を変更することがあります。